

教育に関する事務の管理及び執行状況に
係る点検評価報告

(平成25年度事業)

平成26年8月
酒田市教育委員会

目 次

1	点検・評価制度の概要	1
2	点検・評価の対象	1
3	評価の基準	1
4	外部評価者の意見	2
	○ 酒田市教育振興基本計画体系図	10
5	点検・評価の状況	
I	明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
	(1) 確かな学力の向上	
	・ 学力向上対策の充実	11
	・ 時代に対応した教育の推進 (国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)	12
	・ 読書活動の推進	13
	・ 特別な教育ニーズへの推進	14
	・ 幼保、小、中、高の連携	15
	(2) 豊かな心と健やかな体の育成	16
	・ 生徒指導等の充実	16
	・ 体験活動、交流活動の推進 (学校教育課)	17
	・ 体験活動、交流活動の推進 (社会教育課)	18
	・ 相談支援体制の充実	19
	・ 基礎的運動能力の向上	20
	・ 健康教育の推進	21
	・ 食育の推進	22
	・ 安全教育、安全対策の推進	23
	(3) 家庭、学校、地域との連携	24
	・ 青少年の健全育成・地域教育力の向上・地域活動の活性化	24
	・ 家庭教育の支援	25
	・ 地域産業界、高等教育機関との連携	26
	・ 青少年指導活動の推進	27
	(4) 教育環境の整備	28
	・ 学校施設の整備	28
	・ 学校規模の適正化の推進	30

・ 通学の安全確保	・・・・・・・・・・・・・・・・	31
・ 学習バスの運行	・・・・・・・・・・・・・・・・	32
・ 学校 I C T環境の整備充実	・・・・・・・・・・・・・・・・	33
・ 教育の機会均等	・・・・・・・・・・・・・・・・	34
・ 私立学校等の振興	・・・・・・・・・・・・・・・・	35
(5) 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進		36
・ 教職員研修等の充実	・・・・・・・・・・・・・・・・	36
・ 学校運営の公開と学校評価システムの推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	37
・ 特色ある学校づくりの推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	38
・ 学校施設の地域開放の推進	・・・・・・・・・・・・・・・・	39
II 世代を超えてまなびあう		40
(6) 生涯学習の充実		41
・ 生涯学習推進体制の整備・生涯学習社会の基礎づくり 学習機会の提供・地域活動の活性化	・・・・・・・・・・・・・・・・	40
・ 学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携	・・・・・・・・・・・・・・・・	41
(7) 図書館活動の充実		42
・ 図書館機能の充実	・・・・・・・・・・・・・・・・	42
・ 光丘文庫の保全と活用	・・・・・・・・・・・・・・・・	43
・ 子どもの読書活動の推進（再掲）	・・・・・・・・・・・・・・・・	44
IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす		45
(10) 歴史・文化遺産の保存と活用		46
・ 文化財等の保存及び活用	・・・・・・・・・・・・・・・・	45
・ 地域における民族文化財の保存と活用	・・・・・・・・・・・・・・・・	46
・ 地域資料の収集と保存	・・・・・・・・・・・・・・・・	47
＜参考資料＞		
・ 地域の教育力向上事業実績	・・・・・・・・・・・・・・・・	48
・ 生涯学習推進講座開催事業実績	・・・・・・・・・・・・・・・・	50
・ 東北公益文科大学市民講座実績（内訳）	・・・・・・・・・・・・・・・・	51
・ 出前講座実績	・・・・・・・・・・・・・・・・	51

1 点検・評価制度の概要

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）」第27条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことに基づき、作成するものである。

これにより、次年度の事業計画の検討に用いることで効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とする。

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

平成25年度の教育委員会の権限に属する事務について、その管理及び執行の状況を対象とする。

なお、平成22年4月策定の酒田市教育振興基本計画に記載されている施策のうち、教育委員会所管の施策について39施策を選定した。

※酒田市教育振興基本計画体系図は、P10のとおり。

3 評価の基準

各施策の評価については、次の視点から総合的に判断し、評価基準によりAからDにランク付けを行う。

(1) 主な事業の取組み内容

- ・ 施策の目的、目標に照らして、事業の内容は妥当であるか。
- ・ 事業の対象者、参加者、利用者を意識して事業に取り組んでいるか。
- ・ 目標を達成するために、事業の対象者や事業の回数等は適切であるか。

(2) 事業の成果

- ・施策の目的、目標に照らして、意義ある成果が達成されているか。
- ・二次的な成果や連鎖的な効果など新たな効果がみられたか。

【評価基準】

ランク	評価基準
A	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果は目標水準以上であることから、今後も積極的に施策を推進（展開）していきたい。
B	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策としての成果には一部未達成の事業もある。今後も概ね現行の方法、手法等により推進していく。
C	施策の目的、目標を達成するため、各種事業に取り組んでいる。施策の成果には一部未達成の事業もある。今後は、課題等を踏まえ、事業の対象や手法について見直しを図りながら展開していく。
D	施策の目的、目標を達成するための課題が多く、各種事業に取り組めないでいる。大幅な事業の見直しを図る。

4 外部評価者の意見

点検・評価にあたっては、法第27条第2項の規定により、次の2名の外部評価者から各分野に関して意見をいただいた。

〔外部評価者〕

生涯学習施設「里仁館」館長 富士 直志

東北公益文科大学 教授 和田 明子

教育に関する事務の管理及び執行状況に係る点検評価についての意見

I 全体を通じた意見

教育振興基本計画記載の施策のうち、39施策について説明を受けたが、昨年度に比べて全般的に改善がみられ、各課とも課題克服のために事業を推進してきた跡がみられた。特に社会教育課においては、C評価が5事業から1事業に減少するなど大きな改善がみられた。漠然と事業を継続するのではなく、評価結果を受けて様々な改善・変更が行われていることに深く敬意を表す。社会教育分野は、他課との連携が多く、また成果も短期的には見えにくい分野であるが、今後ともより良い成果を目指した改革・改善に期待する。

数値目標については、平成22年度に策定された酒田市教育振興基本計画に掲げられたものと実際の到達数値が比較されているが、目標の数値と実際の数値に大きな隔たりがある事業も見受けられる。ちょうど今年が5年目という節目の年であるため、中間見直しの際にこの目標数値が適切な数値設定になっているのかどうか、また5年前と状況が大きく変化したため、設定項目がその事業を代表する数値になっているのかどうか吟味する必要がある。場合によっては、設定項目を総合的な指標に置き換えたり、複数の指標を掲げることも検討する必要があると思われる。特に本振興計画は、東日本大震災の前に策定されたものであるため部分的には抜本的な見直しも必要だと思われる。後期計画の策定に際し、より実態をとらえる指標ができる限り多くの事務事業について設定されることを期待する。

各事業の行政評価の資料は、原則1頁にまとめられていて見やすい体裁となっている。資料区分は、各施策の目標、実施状況、効果、課題並びに点検評価などの項目になっていて、評価に必要な項目が盛り込まれていると思われる。改善点としては、比較的大きな規模の事業の場合は必ず予算規模を明示したり、できるだけ関連する個別計画(各種振興計画)との整合性などに触れていただくことも必要であろう。

小中学校の統廃合は、市勢調査に基づいて、順調に進展しているものと思われる。大きなトラブルもなく地域住民も保護者も一定の安心感を持っていると思われる。

統合後も諸行事や伝統が引き継がれ、また両校のよさをいかした新たな活動が生まれるなど、地域の方々が元気で子どもたちを支援できるような広報活動も必要であろう。

日本の教員の忙しさがあらためて問題となっている。酒田市においても、現場の教員が教育に最大限の時間を割けるよう、事務作業等に割く時間の削減に関し、具体的な方策を立てる必要があるのではないかと。

事業展開に際しては、こうした教育委員会の各種事業の概要だけでなく様々な成果や実績などについても周知を図り、それに対する意見を聴取する機会をもつなどの取り組みを期待したい。

Ⅱ 各事業についての意見

1. 確かな学力の向上

(1) 学力向上対策の充実

- ・ 子どもたちの学力状況の分析から、その課題を絞って効果的な授業のあり方や教員の研修会を企画している点は評価できる。
- ・ 重要でしかもこの地域の課題だと思われるので、成果を急がずじっくりと取り組む姿勢が必要である。

(2) 時代に対応した教育の推進(国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)

- ・ 酒田市ならではの活動である「はばたき」や「中村ものづくり」は一定の予算は伴うものの、子どもたちの未来につながる重要な事業であると思われる。
- ・ この両事業のねらいを高めるためには、はばたきの参加者が小学生にプレゼンをするとか、小中の連携を配慮した中学生ものづくり教室を開催し、レベルの高い研究を支援するシステムなど様々な工夫が求められる。
- ・ 中学生海外派遣事業について、成果を下げずに類似事業を統合する方策について引き続き検討されたい。
- ・ 情報モラル教育を効果的に実施する方策について、引き続き検討を進められたい。

(3) 読書活動の推進

- ・ 「読書はあらゆる学習活動の基盤である」ことから、家庭での家族や保護者からの声かけが重要である。
- ・ 微増ではあるが読書冊数が増加していることは、活字離れの時代にあっては評価できるものと思われる。特に、中学生の読書機会を増やす方策を期待したい。
- ・ 学校図書室貸出冊数が増加傾向にあることは評価される。

(4) 特別な教育ニーズへの支援

- ・ 現場のニーズにあった事業を展開していると思われる。一人ひとりの教員がスクールカウンセラーをはじめコーディネーターや支援員と連携して個別支援計画を作成するなど、スキルアップをはかる機会になっている。
- ・ 国の緊急雇用が終了した後も、学習支援員及び学習サポーターは適切に配置される必要がある。

(5) 幼保、小、中、高の連携

- ・ 中高は設置者が異なるため連携は簡単ではないが、双方の窓口が開かれていれば

十分可能である。生徒指導や部活動だけでなく、学力向上、キャリア教育、特別支援教育など接点は数多くある。高大連携も中高大連携のセットで考える視点も重要である。

2. 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 生徒指導等の充実

- ・ 東日本大震災をはじめ、各学校が様々なボランティア活動を経験できるような社会貢献活動計画を体系的に作成して実践して欲しい。
- ・ Q Uテストを実施して、教員が一人ひとりの児童生徒の心の動きを把握できるよう、その分析手法を学ぶことが早期発見につながると思われる。
- ・ 「公益の心」の涵養については、東北公益文科大学の学生が従来から行っている「公益の授業」をもっと活用してはどうか。
- ・ いじめアンケートを実施したことは良かったが、表面に出にくい問題なので、陰湿ないじめを絶対に起こさないためにさらにどのような対策が可能か、絶えず検討しながら進められたい。

(2) 体験活動、交流活動の推進

- ・ 満足度の高い自然体験活動は、学力のみならず子どもの成長を促す効果があることは既に検証されているが、その意味でこうした事業の実施は極めて重要である。
- ・ 本来は社会教育課の事業であると思われるが、小学生が対象ということで今後は、学校教育課と連携して望ましい事業主体を検討して欲しい。
- ・ 旧町の素晴らしい自然や環境を感得する体験事業も実施して欲しい。
- ・ 少年の翼交流事業については、成果を下げずに類似事業を統合する方策について引き続き検討されたい。
- ・ 「さかたっ子・チャレンジ冒険団」をいったん休止するという英断に敬意を表する。地域のニーズを確認した上で、状況によって新たな事業展開を考えるという方針が良いと思う。

(3) 相談支援体制の充実

- ・ 不登校児童生徒の割合の数値は、一般的にはわかり難い。例えば、一校当たりの人数とか1000人当たり人数で表すのはどうか。
- ・ 不登校のきっかけとして「家庭環境」「親の養育問題」が挙げられている。社会においても子どもの貧困が大きな問題となっている。関係各課と連携してこの問題に対処していく必要があるのではないか。

(4) 基礎的運動能力の向上

- ・ 掲げられている目標数値は、運動能力の一つの側面を表しているが全体を表す指標とは言い難い。向上している種目もあることを考えると水泳も含めた複数の設定が望ましいと思われる。

(5) 健康教育の推進

- ・ 食物アレルギーなど研修も実施されており、新しい課題にも積極的に対応している点は評価できる。
- ・ 事業の効果が見えにくいので、引き続き効果を評価する具体的な方策について検討されたい。

(6) 食育の推進

- ・ 味覚教室など新たな食育教育を展開している点は評価できる。
- ・ 地元産野菜だけが地産地消の対象ではなく米飯や米粉パンなどを含めた地元食材の利用が求められている現状を考えると、この数値目標は総合的な指標とは言い難い。新たな目標の設定が望まれる。

(7) 安全教育、安全対策の推進

- ・ 東日本大震災を契機にして、津波対策や避難訓練などのいわゆる非常災害時の対応は少しずつ意識が向上してきている。引き続き、ひとり一人が体験を通して「生き延びる」意識を醸成することが必要である。
- ・ 日常の交通事故防止には、子ども自身の自覚が重要である。併せて、保護者自身も子どもに良い手本を見せられるような良識ある態度が重要である。
- ・ 多くの人たちの協力によって子ども達の安全が守られていることに敬意を表する。今後は、自転車の安全教育に力を入れていく必要がある。

3. 家庭、学校、地域との連携

(1) 青少年の健全育成

- ・ いわゆる「地域の先生」は各学校の貴重な人材を活用できる事業である。各学校から要望を基に査定しているということであるが、その予算規模も明示して欲しい。
- ・ 「かざみどり」をはじめ学校の枠を超えた中高生のボランティア活動は全国に誇るべき活動スタイルであり、一層の活躍を期待したい。
- ・ 高校生ボランティア「かざみどり」の数々の受賞に敬意を表する。今後益々の活躍に期待する。

(2) 家庭教育の支援

- ・ 保育所や幼稚園との連携を含め、実に様々な講座を開催し、家庭の教育力向上に推進されていることに敬意を表したい。
- ・ 児童虐待を防ぎ、子どものかわいらしさを体験する「赤ちゃん登校日」の事業は、中学の技術家庭科や高校の家庭科に位置付けるなどして継続的に実施して欲しい。
- ・ 各課で行っている類似事業・関連事業を一覧表にし、市民に公開したことは高く評価される。今後は、類似事業の統合などにも発展させることができればさらに良い。

(3) 地域教育力の向上

- ・ 地域の教育力向上事業を中核として、子ども自身が、地域や酒田を愛する気持ちを育むことは極めて重要である。未来の酒田を担う人材育成の基盤となっていく。

(4) 地域産業界、高等教育機関との連携

- ・ キャリア教育は、将来適性に合った職業に就いたり、自分の能力を開花させる意味で重要な活動である。とりわけ中学生にとって2～3日間にわたる職場体験学習は貴重な体験である。多くの職場をお借りして研修している実態を具体的に紹介して欲しい。

(5) 青少年指導活動の推進

- ・ 生徒指導上、中学校や高等学校にとって、青少年指導センターや酒田警察署生活安全課などの情報は極めて重要である。今後も関係機関と連携した取り組みを期待したい。
- ・ 多くの人たちの協力によって子ども達の安全が守られていることに敬意を表する。今後は、ネット上のいじめに対する効果的な対策についてさらに検討を進めていく必要がある。

4. 教育環境の整備

(1) 学校施設の整備

- ・ 耐震化工事や小中学校の校舎及びグラウンドの整備も順調に進んでいると思われる。
- ・ 施設整備は児童生徒のみならず地域や保護者にも大きな信頼感を与えている。
- ・ 閉校後の校舎やグラウンドの利活用や管理あるいは解体等についても地域住民の声を聞きながら無理のない範囲で計画的に進める必要がある。
- ・ 耐震化が計画以上のスピードで進捗していることは評価される。

(2) 学校規模の適正化の推進

- ・ 将来の教育人口統計をもとに、統廃合の基準に基づいて、住民の理解を得ながら、計画的に統廃合を進めている点は評価できる。
- ・ 学校統合が大きな問題もなく進んでいることは、関係者の尽力の結果と考えられ、高く評価される。

(3) 通学の安全確保

- ・ 日々の地域安全学校指導員や見守り隊の活動は市民に大きな安心感を与えている。今後も学校、地域、警察の三者の連携の下、安全な児童生徒の登下校を推進して欲しい。
- ・ 統廃合等によって増加しているスクールバスの運行や冬期間の通学対策に関してはきめ細かい対応と配慮が必要である。

(4) 学習バスの運行

- ・ 増加傾向にある校外学習のバス使用についてはデータを公表するとともに、教育的見地から適切な使われ方になっているかどうか活動計画を吟味することも必要である。

- ・ 学習バスとスクールバスの稼働率を明示し、それらの相互利用も含めたより効率的な使用について検討を進めると良いのではないか。

(5) 学校 I C T 環境の整備充実

- ・ 機器の活用ができる教員を増やすとともに、実際に I C T 機器を使用したのかどうかも重要である。数値目標の設定内容については一考の余地がある。

(6) 教育の機会均等

- ・ 京野基金や利子補給、私学助成などについては給付交付型で国や県の制度を補完している。生徒・保護者の負担を軽減する施策であり、評価できる。
- ・ 国や県の類似する制度及び民間の事業等との関連を随時確認しながら対応する方針は良い。

(7) 私立学校等の振興

- ・ 減額せずに特色ある私立高等学校へ補助金を交付している点は評価できる。

5. 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進

(1) 教職員研修等の充実

- ・ 教員は常に職責を全うするために、研修と修養が義務付けられている。初任者、5年目、10年目の制度的な総合研修のほか、教員が様々な領域に精通するためには現代的な課題を含めてひとつひとつ学ぶことが重要である。とりわけ「いじめ」「体罰」については早期に対応できるようなスキルを身につける必要がある。
- ・ 研修が現場教員のニーズに合っているか、また現場教員の時間的制約・忙しさにも配慮しているかを考えながら、今後とも研修の充実に努められたい。

(2) 学校運営の公開と学校評価システムの推進

- ・ 児童生徒、保護者、教職員そして学校評議員や学校関係者評価などの評価結果は地域を含めた関係者に公開するとともに、課題になっている点は、管理職が責任をもって説明して今後の対応策や方向についても述べることが重要である

(3) 特色ある学校づくりの推進

- ・ 学校裁量交付金は、学校独自の活動を支援できる有効な事業である。各学校の課題に応じた活動を展開でき学校運営に資することができる。
- ・ より実態に即した事業名に変更されたことは評価される。

(4) 学校施設の地域開放の推進

- ・ 学校施設は十分に開放されており、かつまた十分利用されており、学校と地域が関わる機会の提供にもつながっている。

6. 生涯学習の充実

(1) 生涯学習推進体制の整備 (2) 生涯学習社会の基盤づくり

(3) 学習機会の提供 (4) 地域活動の活性化

- ・ 各世代にわたって、多くの講座を開講しており、多様なニーズに対応している。さらに、市民講座や青年講座のように社会の要請や地域の活性化につながる内容の設定と育成に努力して欲しい。
- ・ 松山歴史公園は翌年オープンするので、文化伝承館とともに松山能などの伝習機能を中核とした伝統芸能と地域住民の拠点となるような配慮が必要である。

(5) 学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携

- ・ 補助団体については、活動状況を踏まえた助言や補助額の決定が望まれる。

7. 図書館活動の充実

(1) 図書館機能の充実

- ・ 貸出冊数は、人口減に伴って減少することを考えると、例えば、冊数よりも一人あたりの年間貸出冊数のほうがより妥当な数値目標の設定になるのではないかと。
- ・ 貸出冊数及び人数の減少について、早急に原因を把握・分析する必要がある。
- ・ 行政資料等の配架について引き続き検討されたい。

(2) 光丘文庫の保全と活用

- ・ 豊富な所蔵資料を活用した企画展やギャリートークを開催して入館者が増加していることは評価できる。

(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）

- ・ 子どもの読書冊数は、学校図書館での貸し出し数と総合して分析する必要がある。ここでの数値目標も一般と同じように児童生徒一人あたりの年間貸出冊数のほうがより妥当な数値目標になるのではないかと。

10. 歴史・文化遺産の保存と活用

(1) 文化財等の保存と活用

- ・ 国や県の各種指定を受けるためにも専門職員の配置が必要なのではないかと。
- ・ 「埋蔵文化財に精通した専門職員の継続的養成」の具体的方策について早急に検討されたい。

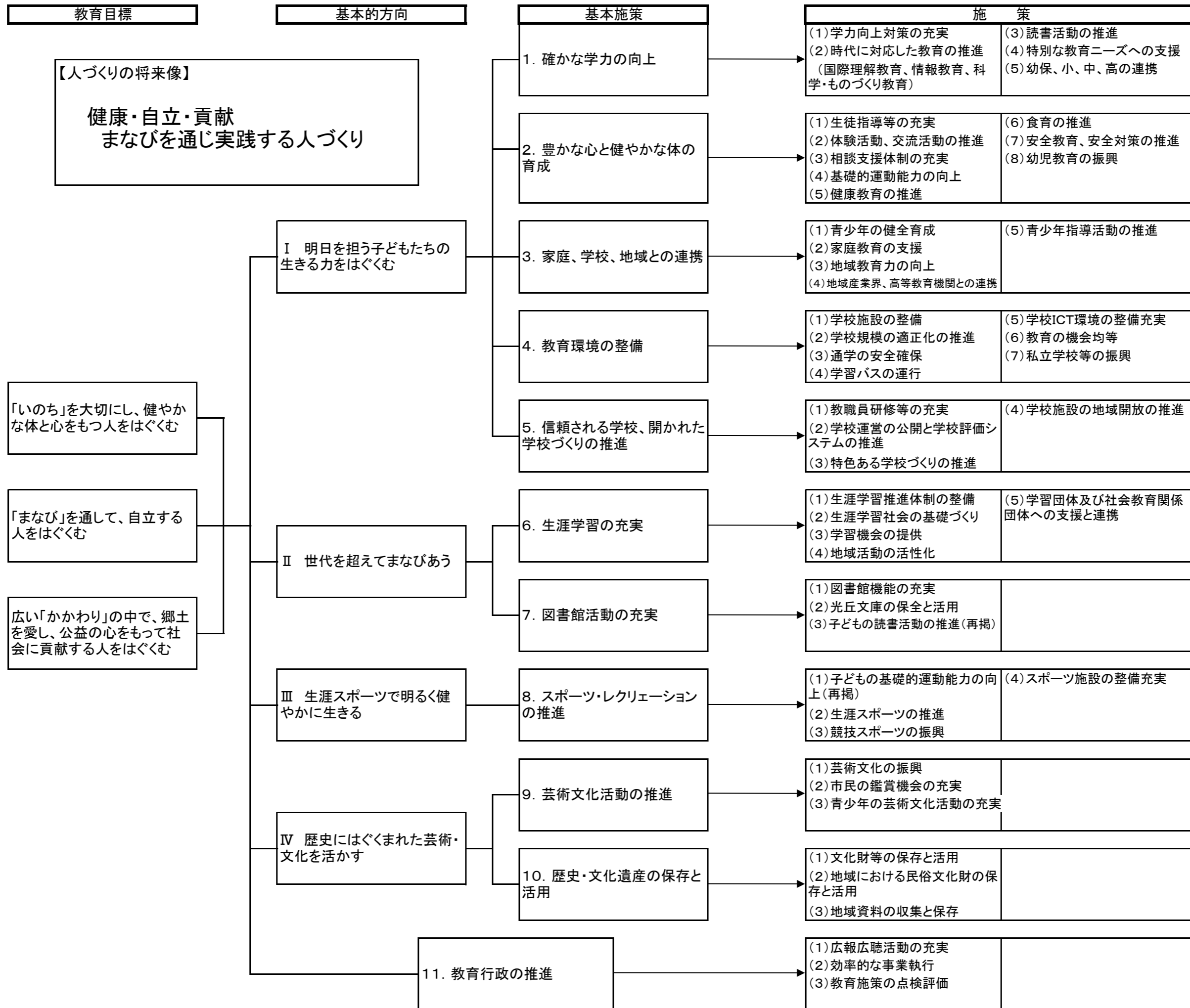
(2) 地域における民俗文化財の保存と活用

- ・ 素晴らしい伝統芸能の祭典「民俗芸能フェスタ」を児童生徒も含めて多くの市民が鑑賞できるような環境整備を期待したい。

(3) 地域資料の収集と保存

- ・ 3館とも施設環境や地理的条件に課題がある施設なので、入館者を伸ばすには所蔵品にこだわることなく個性的な企画展示が望まれる。
- ・ 旧鑑屋の入館者数増について、指定管理者の努力に敬意を表する。
- ・ ①入館したいと思う魅力的な展示内容、②マスコミへの露出度、が入館者数の増に大きく寄与すると考えられるので、今後ともその点について努力されたい。

酒田市教育振興基本計画体系図



基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1 確かな学力の向上
施策	(1) 学力向上施策の充実
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に対応した授業等の改善、少人数指導等による指導法の改善を通し、小中9年間を見通したまなびを推進することで、「生きる力」を支える「確かな学力」の育成を目指す。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問指導を通し、学習指導要領の趣旨を各教員に伝えるとともに、「確かな学力」を育成するための授業改善につなげる。 ・小学校4年生から中学校3年生全員を対象に学力検査を実施し、児童生徒の学力の傾向を分析するとともに、各校での指導に生かす。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学校訪問指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校で実施した48回の授業研究会に延べ150名の指導主事を派遣し授業改善に向けた指導・助言を行った。 <p>○学力向上対策事業【予算現額9,748千円】【決算額9,626千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生から中学校3年生までの全児童生徒を対象に学力検査を実施し、その結果をもとに小中校長会の検討委員会で調査分析し調査報告書を作成した。 ・算数・数学に特化した小中授業力向上研修会を行い、小中学校の枠を超え、算数・数学科の「学習指導要領が求める授業」のあり方について理解を深めることができた。 <p>○教育研究所運営事業【予算現額874千円】【決算額646千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域毎の研究部で授業研究会や研修会を延べ90回実施した。 	
事業の効果	
<p>○ひとつの学習内容のまとめや1時間の中で児童生徒につけたい力を明確にした授業、一人一人の学習状況を適切に評価し指導に生かす授業が多く見られた。</p> <p>○標準学力検査や全国学力学習状況調査の分析により、各学校、各学級、各教科の学習状況の把握が進み、課題に応じた指導方法の改善につなげることができた。また、小中授業力向上研修会の実施により、算数・数学科における学習指導が求める授業のあり方や、小中それぞれの指導事項の確認と系統性等を把握することができた。</p> <p>○酒田市教育研究所の各研究部が、児童生徒の実態をもとに課題を設定し、授業研究会や外部講師を招聘しての研修会を開催することで、学習指導要領の趣旨に沿った授業改善が図られた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力のバランスを重視するため、教科の特質に応じた言語活動を設定して、授業の構成や進め方を工夫していくよう、要請訪問等を通して各校に指導していく。 ○全国学力学習状況調査等において、思考力や判断力を問うB問題の正答率が低い状況にある。文部科学省の教科調査官を招聘しての授業研究会や研修会を実施し、効果的な指導の在り方についての教員研修を実施する。 ○学び合い高め合う学級づくりが学力向上のベースになることから、Q-Uテスト等の実施も検討していく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1 確かな学力の向上
施策	(2) 時代に対応した教育の推進(国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育)
担当部署	学校教育課・管理課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の進展と社会の変化に伴い、国際理解教育、情報教育、科学・ものづくり教育などを推進することにより、子どもたちに時代にふさわしい能力を身につけさせる。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTを効果的に活用することで、英語を使つてのコミュニケーション能力を高めることができるようにするとともに、中学生海外派遣事業「はばたき」を通して、国際感覚の基礎を身につけられるようにする。 ・情報教育担当者会での研修を通して教員の指導力を高め、児童生徒の情報モラル及び情報活用能力の向上を図る。 ・理科教育センター各事業及び中村ものづくり事業の活動を通し、身近な現象を科学的に解き明かす力の育成やものづくりの楽しさを感じさせるようにする。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○外国人英語講師招致事業【予算現額19,265千円】【決算額17,128千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、外国語時間数増に対応してALT(外国人英語助手)とのTT(ティームティーチング)授業増を可能とし、小学校5,6年生全クラスでALTとのTTを13時間実施した。 <p>○中学生海外派遣事業「はばたき」【予算現額6,550千円】【決算額6,529千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24名の中学生(男子10名、女子14名)をオハイオ州：デンプシー中に派遣した。5泊6日のホームステイでは、団員が一人ずつ、受け入れ家庭に宿泊し、国際交流を図った。 <p>○情報活用能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育担当者会において、情報モラル及び情報活用能力の育成を図る指導の在り方を研修し、各校の指導に役立てるようにした。 <p>○中村ものづくり事業【予算現額2,028千円】【決算額2,028千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジものづくり塾(年間8回開催、塾生35名)、サイエンス発明教室①(4領域88名)サイエンス発明教室②(2領域68組)、ものづくり出前授業(延べ18校550名)を実施した。 <p>○理科教育センター推進事業において、理科自由研究相談会を実施し、酒田市教育委員会科学賞に多くの児童が応募した。</p>	
事業の成果	
<p>○小学校へのALT派遣時数を昨年度の12時間から13時間に増加させることにより、英語を使つてのコミュニケーションを図る機会を増やすことができ、児童に外国語を学ぶ楽しさを実感させることができた。</p> <p>○「はばたき」学習会において、デンプシー中学校での日本文化の準備を充実させた。その結果、現地で文化紹介を通じてのコミュニケーションが大変活発におこなわれた。</p> <p>○情報モラルを行動として身に付けられるような指導を進めることができた。</p> <p>○ものづくりの基礎的な力と創意工夫する力を高めるために、サイエンス発明教室2回目を実施し、親子一緒にものづくりをする機会を提供することができた。</p>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が外国語を学ぶ楽しさを実感できているが、指導に不安を感じている小学校教員のために、外国語活動研修会を継続していく。 ○携帯電話等を介してのトラブルが多くなっていることから、各学校に対して児童生徒、そして保護者向けの研修会の実施をはたらきかける。 ○ものづくり事業については、サイエンス発明教室②の立ち上げで対象学年を広げることができたが、似たような名称の講座が多くなり混乱も認められたのでネーミングや内容についての整理統合を図っている。 ○理科自由研究相談会は好評であり、今後も続けていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ							
基本施策	1 確かな学力の向上							
施策	(3) 読書活動の推進							
担当部署	学校教育課・図書館							
施策の目的及び目標								
○目的 ・読書活動を充実させるため、本との多様な出会いを工夫するとともに、読書に親しめる環境の充実を目指す。								
○目標								
		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	31年度
学校図書室貸出冊数	小	7.0冊	7.4冊	7.3冊	8.3冊	8.8冊	7.5冊	8.0冊
(1人当たり月平均)	中	0.6冊	0.5冊	0.4冊	0.6冊	0.63冊	1.5冊	2.0冊
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況								
○各小中学校への図書専門員の配置 ・30名の図書専門員を全小中学校に週2～3日配置し、学校図書の環境整備を行った。								
○図書購入費の各小中学校への配当 ・小学校15,640千円、中学校12,381千円の図書を購入した。								
○図書館教育研修会の実施 ・学校図書館アドバイザーを招聘し、「学校図書館の機能アップと活用をはかる」というテーマのもと、図書管理システムを活用した読書意欲の喚起や破損本の補修の仕方など、具体的に実践的な研修を行った。								
○読書指導研修会の実施 ・文部科学省教科調査官を招聘し、「子どもがデザインする読書生活ーこれからの読書指導ー」というテーマのもと、講話を聴く機会を持った。								
事業の効果								
○図書専門員の間で管理システムに対する理解が進み、特に小学校において読書量や読書意欲の向上が報告されている。具体的には、予約や統計、検索などの機能を活用した読書意欲の喚起を図っている学校が増えており、児童生徒にシステム運用の利便性が還元されている。								
○学校図書館の標準冊数充足率が、市全体として小学校で107.7%、中学校で95.3%となっている。中学校の充足率については、学校統合等によって除籍や廃棄が進み今年度100%を切ったため、次年度以降、充足率を高めていく。								
○図書館教育研修会の中で、図書担当教諭と図書専門員が共通した研修を受けることにより、読書と学力の関係や授業に係る参考図書リストの作成による図書館活用の促進など、図書館と授業を結ぶ実践的なアプローチについて理解を深めた。								
○読書指導研修会の実施により、魅力ある図書館づくりと貸し出し業務の効率化を進めることができ、児童生徒の貸出冊数増加につながった。また、読書指導の目的である「自立した読み手の育成」に向け、読書を通じて得られる情報を適切に活用し、自己の成長に役立てることの重要性について研修を深め、図書館の機能化に対する意識を高めた。								
点検結果・自己評価（課題・方向性）								
評価	B	○図書専門員の配置と図書購入費の各小中学校への配当により、学校図書館の環境充実が図られている。近年、統合が続いた中学校においては除籍や廃棄により、標準冊数充足率を下回ったため、配当継続により充足率を保っている。 ○朝読書、読み聞かせ、並行読書など、「本にふれる」機会や時間が多様な形で確保され、貸出冊数の増加につながっている。今後さらに、「酒田市子ども読書活動推進計画」にある取り組み等を通して、中学生の読書意欲向上をめざしていく。 ○図書館リスタート事業の中の、「学習・情報センター」としての学校図書館機能を高め、各教科と関連した本を手にとれる環境づくりを進めるよう、各校に指導していく。						

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	1 確かな学力の向上
施策	(4) 特別な教育ニーズへの支援
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADHD（注意欠陥多動性障がい）・LD（学習障がい）・広汎性発達障がいなど、個別の支援を必要とする児童生徒や日本語でのコミュニケーションが困難であったり、長期入院のため学習の遅れが心配される児童生徒に対して、個別のニーズに応じた支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員等の適正な配置により、個別の支援を必要とする児童生徒へ対応し、一人一人の教育的なニーズに沿った指導・支援を行う。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援にかかわる相談活動や連絡調整が組織的に行われるようにする。 ・日本語指導講師の派遣により、日本語でのコミュニケーションが困難な児童生徒が、学校での生活に早期に適応できるようにする。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学習適応支援体制推進事業</p> <p>【予算現額39,200千円＋緊急雇用13,016千円】 【決算額38,930千円＋緊急雇用13,016千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任の補助を担当する学習支援員35名及び緊急雇用による学習サポーター10名を、小学校22校、中学校7校に配置した。1日6時間、年間200日勤務。年間4回の研修会・情報交換会を実施した。 <p>○ADHD等支援体制推進事業【予算現額4,587千円】 【決算額4,352千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の特別支援教育コーディネーター（教員が担当）を主な対象とし、児童生徒一人一人の障がいに応じた具体的手立ての研修会を2回実施した。 ・保護者研修会（ペアレントトレーニング）の開催（5回×1グループ）、2名の特別支援教育巡回相談員による巡回指導（27校延べ235回）を実施した。（H24は延べ239回） <p>○日本語指導講師等派遣事業【予算現額1,241千円】 【決算額579千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導講師の派遣186回、長期入院児童生徒への学習アドバイザー派遣0回。 	
事業の効果	
<p>○学習支援員が、配置のねらいに沿って機能しており、年4回の研修会及び情報交換会を通して、特別な支援を要する児童生徒への適切な対応ができるようになってきた。</p> <p>○学習支援の配置により、特別な支援を要する児童生徒の多くが、落ち着いた学校生活を送れるようになってきている。</p> <p>○特別支援教育研修会の実施により、発達障がいのことだけではなく、広く学級経営に根差した研修を深めることができた。また、巡回相談員による巡回指導を通して、支援を必要とする児童生徒の実態把握と組織的な支援体制ができてきた。</p> <p>○個に応じた日本語指導の対応を行うことにより、児童生徒が学校での生活に適応することに大いに役立っている。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個別の支援を要する児童生徒の増加に伴い、学習支援員の配置希望が、多くの学校から出されている。今後も対象児童生徒の状況を細やかに把握するとともに、学習支援員を適切に配置していく。 ○酒田特別支援学校の協力や巡回相談員による巡回指導を通して、特別支援教育についての研修が深まり、各校においても組織的な支援体制が整いつつある。今後、福祉課等との連携を強化し、幼児期からの支援をより一層推進していく。 ○日本語指導講師による個に応じた対応で、日本語のわからない児童生徒が安心して学校生活を送ることができた。今後も、より円滑な適応を目指した支援をしていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ	
基本施策	1 確かな学力の向上	
施策	(5) 幼保、小、中、高の連携	
担当部署	学校教育課	
施策の目的及び目標		
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校と高等学校が連携を図り、育ち・学びのつながりを重視した児童・生徒への支援を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校・保育園と小学校が連携し、保育や指導についての相互理解を深め、学びの連続性を考慮した指導に生かす。 ・小学校と中学校が連携し、各中学校区をまとまりとした教職員の相互研修会を実施することで、9年間を通したまなびのつながりを重視した指導に生かす。 ・中学校と高等学校が連携し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実を推進する。 		
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況		
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」（子育て支援課）の場で幼保小の今後の連携のしかたやこれからの幼児教育振興計画について、東北公益文科大学の國眼眞理子先生より助言をいただきながら研修した。</p> <p>○幼保小指導者研修会（子育て支援課）において、幼稚園、保育園、小学校の職員がめざす子どもの姿を共有化し、指導や保育の効果的なありかたを話し合う研修ができた。</p> <p>○幼保小指導者相互職場体験研修（子育て支援課）において、幼稚園、保育園、小学校の職員が互いの現場に赴き、実習をすることで教育観、保育観を理解したり、子どもの様子を観察したりすることができた。</p> <p>○昨年度までの「小中スクラム事業」を引き継ぎ、「小中授業力向上研修会」として算数・数学に特化し、広野小学校と第四中学校を会場に研修した。</p>		
事業の成果		
<p>○「酒田っ子すくすく育成会議」では、これからの幼保小連携のしかたについて話し合い、方向性を確認することができた。</p> <p>○幼保小指導者研修会は、グループ演習をとりいれ、ワークシートを使いながら活発に話し合うことができた。幼稚園、保育園と小学校の先生方が、それぞれ子どもの見取り方を出し合い、伸ばしていくために話し合うことができた。</p> <p>○幼保小相互職場体験研修では、子どもの発達段階を理解し、指導や保育に係る課題を共有化し、日常の実践につなげることができた。</p> <p>○小中授業力向上研修会では、酒田の課題となっている算数・数学の学力向上に向けて、小学校と中学校の教職員が互いの授業を見合い、指導のポイントを話し合うことができた。講師の先生からの助言も好評だった。</p>		
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	B	<p>○相互職場体験や幼保小指導者研修会を重ねてきたことで、幼稚園、保育園と小学校の子どもの見取り方や教育観の理解は進んできた。今後はより具体的にできる手だてを各幼保小の実態に合わせて実行できるよう、研修を深めていく。</p> <p>○小中のつながりでは、本市の課題である算数・数学に特化して授業力を高め、研修ができた。今後も継続していく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(1) 生徒指導等の充実
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・響き合うあたたかな心をはぐくむような生徒指導の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育指導（経営訪問、計画訪問、要請訪問）等を通して、心が通い合い、高め合う集団づくりを育むとともに、道徳教育の充実と「公益の心」の涵養を図る。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学校教育指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の重点に沿った各校の経営の重点及び指導の重点を立案する際に、児童生徒の自尊感情や所属感を高める指導、「公益の心」の涵養のための教材開発や体験活動の工夫、授業や学校生活の場面で生徒指導の三機能を生かした指導等について、各校の状況に合わせて盛り込むように指導した。 <p>○心が通い合い高め合う集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒田市生徒指導主事会議、小学校生活指導連絡協議会、中学校生徒指導連絡協議会において情報交換を行い、児童生徒の主体性を大切にした児童会、生徒会活動の推進を指導した。（生徒会連絡協議会の実施） ・教育長と各中学校生徒会執行部が語る会を実施した。 ・いじめアンケートの実施をした。 <p>○道徳教育の充実と「公益の心」の涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要請訪問を通して、道徳教育推進教師を中心に、学校の重点、各学年の重点の内容を年間を通じて計画的に指導して行くことを指導した。 	
事業の効果	
<p>○授業や学校生活の各場面において、生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係）を生かした指導が多くの学校で見られるようになってきている。</p> <p>○積極的な生徒指導が行われるとともに児童生徒の主体的な活動が展開されてきた。</p> <p>○教育長と語る会の実施により、中学生の本音を直接聞くことができた。</p> <p>○いじめアンケートの実施によりいじめの実態把握が進み、解決へ向けての取組みがなされた。</p> <p>○心に響く道徳教材の開発が進められるとともに、児童生徒のボランティア活動等、各校の状況において工夫が見られるようになった。</p> <p>○公益の心の涵養につながる勤労生産的体験活動及び社会奉仕体験活動が、多くの学校でも実施されるようになってきた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の個性を把握し、教師と児童生徒、児童生徒同士の関わりの中で、自尊感情を育む指導は大切にされているが、今後も引き続き大切にしていく。加え家庭においては、望ましい生活習慣の確立と、家族のふれあいを大切にしていくことを学校を通じ、伝えていく。 ○児童生徒の主体性を伸長する児童会、生徒会活動を各小中学校にはたらきかけていく。 ○SNSによるコミュニケーションが児童生徒の間でも普及してきている。相手を思いやる言葉を使うことを、日常的に指導していくことを各小中学校にはたらきかけていく。 ○心が通い合う高め合う集団づくりの構築に向け、集団づくりに関する研修会の実施を行うと共に、全小・中学校でQ-Uテスト（楽しい学校生活を送るためのアンケート）が、実施できるように検討していく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ				
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成				
施策	(2) 体験活動、交流活動の推進				
担当部署	学校教育課				
施策の目的及び目標					
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国内の異なった地域の文化に触れる機会を与えることで、自分の育った地域のよさの再認識を図るとともに、自主性や協調性を養い、生きる力を育む。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や交流活動を通し、人や自然とのかかわりの中で思いやりの心や自然の営みへの感謝の心の育成を図る。 					
		24年度	25年度	26年度	31年度
交流活動参加 児童の満足度	飛島いきいきスクール	98%	95%	95%以上	95%以上
	自然体験学習	93%	90%	95%以上	95%以上
	少年の翼	100%	97%	95%以上	95%以上
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況					
<p>○飛島いきいき体験スクール支援事業【予算現額2,181千円】【決算額1,629千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6小学校、児童328名参加（H24:9校455名、H23:4校225名、H22:12校582名、H21:10校615名） ・飛島小・中学校を活動拠点とし、2泊3日で野外観察やイカ釣り等の体験学習及び飛島小学校児童との交流を実施した。 <p>○自然体験学習推進事業【予算現額2,124千円】【決算額1,925千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7小学校、児童367名参加 ・鳥海高原家族旅行村を基点とし、トレッキングや登山等自然環境を利用した体験活動やエコバッグや鳥海山制作等のクラフト活動を実施した。 <p>○少年の翼交流事業【予算現額3,507千円】【決算額3,136千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄訪問：12月15日(日)～19日(木)小学5年生22名、小学6年生14名、受入：今帰仁小学校 ・受け入れ：2月5日(水)～8日(土)今帰仁村 小学6年生36名、交流担当校：西荒瀬小学校 					
事業の成果					
<p>○離島の自然・歴史・文化等について学び、島民と触れ合うことを通して、飛島のよさについて児童自ら考えるとともに、自然や人とのかかわりの大切さを実感することができた。</p> <p>○本市の鳥海山を利用した体験活動を通して、自然に十分に浸り、自然に触れ合うことの素晴らしさ、自然の美しさを実感することができた。また、友達やスタッフと協力することで、人とのかかわりの大切さを学ぶことができた。</p> <p>○少年の翼では、沖縄の小学生との交流を通して互いの地域を理解することができた。さとうきび収穫や紅型染体験等を通し、日本国内の異なった地域の文について理解を深めることができた。また、ひめゆりの塔の見学や摩文仁の丘の見学を通して、平和の大切さを感じることができた。さらに、沖縄からの派遣団を受け入れることで、酒田のよさに触れてもらうこともできている。</p>					
点検結果・自己評価（課題・方向性）					
評価	A	<p>○飛島が持つ本市固有の学習フィールドとしての価値は素晴らしいものである。今後も、飛島小・中学校と連携を図りながら有意義な活動となるようにしていく。</p> <p>○市内の小学生が生まれ育った酒田の自然を体験し、自然の雄大に触れることができています。今後も体験プログラムの見直しを図り、更に充実した活動にしていく。</p> <p>○少年の翼については、満足度とともに、交流を通じた相互理解と友好が図られたかどうかについて、振り返りを行うことで、児童の成長につなげていきたい。</p>			

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(2) 体験活動、交流活動の推進
担当部署	社会教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を超えた異年齢の子ども達の協同した体験活動を通して、心豊かな人間性と自立心を育み、仲間づくりとリーダーの育成を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業に参加した子どもたちの自主性と協調性を養い、それぞれの学校、地域、家庭において積極的に物事に取り組んでいける子どもを育む。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○「さかたっ子・チャレンジ冒険団」(生涯学習推進講座開催事業)</p> <p>実施回数／3回、延べ参加人数／54人、 対象／春・夏 小学校4～6年生児童、冬 小学校1～6年生児童 募集方法／①カモンくんこどもニュースに掲載し全児童に配布 ②広報、ホームページへ掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春：6月15日(宮海海水浴場 その他) 海での魚釣り体験、魚のさばき方体験と調理実習 【参加人数 19人／申込み者19人】 ・夏：8月1日～2日(平田地区) [1日目] 夏休み宿泊体験：経ヶ蔵山登山、野外炊飯、平田生涯学習センターに宿泊体験、[2日目] カヌー体験 【参加人数 20人／申込み者20人】 ・冬：3月8日(八幡地区) イヌワシの森で雪と遊びと蜜ろうそく作り 【参加人数15人／申込み者数15人】 	
事業の成果	
<p>○自然体験を通して、酒田の自然と歴史、文化への理解を深めることができた。また夏の登山では、頑張って登った達成感を参加者全員で味わうことができた。</p> <p>○参加者アンケートによる満足度は、1回目84%、2回目90%、3回目93%と好評であった。</p> <p>○参加者が、学校の枠を超えた異年齢交流が促進された。</p> <p>○冬の雪遊びでは、参加対象を1年生まで広げ、高学年のリーダーシップを育むことができた。</p>	
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	<p>C</p> <p>○自然体験については、地域での活動、学校での活動の他に民間団体でも同様の活動を行っているため、来年度以降休止を検討。今後は地域で行う自然学習について、安全対策、体験内容、指導者等の情報提供を行う。 なお、市街地の児童生徒が、体験交流活動を行える環境が整っているのか再度検証し、状況によっては新たな事業展開を考える必要も有る。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成					
施策	(3) 相談支援体制の充実					
担当部署	学校教育課					
施策の目的及び目標						
○目的 ・いじめや不登校等としてあらわれてくる児童生徒の心の問題について、学校内外で相談できる環境整備を行い、児童生徒の心身の健全育成を図る。						
○目標						
		23年度	24年度	25年度	26年度	31年度
不登校児童生徒の割合	小	0.17%	0.19%	0.29%	0.1%未満	0.1%未満
	中	1.96%	2.26%	2.73%	1.6%未満	0.1%未満
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況						
○教育相談充実事業【予算現額7,877千円】【決算額7,129千円】 ・教育相談室での来室・電話相談の実施（平成25年度257件（新規97件）、平成24年度 276件（新規94件）平成23年度 273件（新規86件）、平成22年度 252件（新規74件））、不登校児童生徒の保護者研修会を3回実施した。 ・教育相談研修講座を4回実施、各校教育相談担当者の資質向上のための研修を4回実施した。						
○適応指導教室（ふれあい教室）維持事業【予算現額970千円】【決算額789千円】 ・不登校児童生徒の集団適応能力を育成し学校への復帰を目指すような支援を行った。（小学生3名、中学生9名通級）						
○スクールカウンセラー等活用事業【予算現額11,680千円】【決算額9,710千円】 ・県の事業と合わせながら、スクールカウンセラー（SC）6名と教育相談員8名を各中学校に配置するとともに、3名の家庭訪問相談員を要請に応じて派遣した。						
事業の成果						
○ケースに応じて学校と検討会を設けたり、適切な人材を派遣をしたりすることができた。						
○本市の教育相談課題に対応した各種研修会を実施することで、教員の日々の指導に生かしてもらうことができた。教職員の参加率も増えている。						
○適応指導教室（ふれあい教室）での体験活動を通じ、他の通級生や体験活動の講師の先生方と安心して関わるできるようになり、自信を取り戻せた例も多くある。不定期ではあるものの9名の児童生徒が学校に登校できている。						
○SCや相談員の校内教育相談体制における位置づけが明確になり、小学校を含め増加傾向にある相談件数に対応して、児童生徒の状況に応じた相談活動が行われている。						
点検結果・自己評価（課題・方向性）						
評価	B	○不登校が小、中とも増加傾向にある。そのきっかけの多くは、本人に関わる問題、友達関係をめぐる問題が多く、人間関係づくりが課題として上げられる。また、小学校では家庭環境や親の養育問題に関わることも多い。今後は事例をもとに迅速な対応ができるよう教職員の力量を高めていくと共に、未然防止にも全力をあげていきたい。 ○発達障害に起因する不登校も増加していることから、特別支援教育への理解を深めていくことが大切である。研修内容を充実させていきたい。 ○SCの通常の配置時数の他、裁量で使える時数を確保して小学校への対応や特別支援が必要な児童生徒への対応としてフレキシブルに活用できるようにする。また、医療や他課との連携も強化していく。				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成					
施策	(4) 基礎的運動能力の向上					
担当部署	学校教育課					
施策の目的及び目標						
○目的						
・基礎的運動能力向上のための指導内容の充実を図り、児童生徒が、運動の楽しさや喜びを体感しながら、基礎的な知識や技能を身につけることができるようにする。						
○目標						
・小学校低学年の「体づくり運動」を中心とした指導内容の充実を図り、基礎的運動能力の向上に向けた取組みを支援する。						
		23年度	24年度	25年度	26年度	31年度
小学校3年生の50m走の平均	男子	10.41秒	10.54秒	10.66秒	10.24秒	10.17秒
	女子	10.54秒	10.54秒	10.49秒	10.49秒	10.48秒
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況						
○運動遊びサポーター派遣事業						
・希望のあった小学校15校に講師を派遣し、1、2年の児童を対象に、年間3回「体づくり運動」に関連する運動を実際に行うとともに、教員に指導内容を周知し指導にいかす。						
・様々な運動の基礎となる敏捷性や平衡性、巧緻性、協応性等を育てるために、体のバランスをとる運動遊び、用具を操作する運動遊び、力試しの運動遊び等を実施した。						
○小中学校スポーツ振興事業						
・市内全小学校の参加による陸上競技記録会及び水泳競技記録会開催を支援した。						
○万歩計の活用						
・日常的な運動に対する意識向上をめざし、万歩計を希望する学校に貸し出した。(182個)						
事業の成果						
○運動遊びサポーター派遣事業を通して、低学年担当教員に、1、2年生で経験させたい「多様な動きをつくる運動遊び例」について、児童への指導も踏まえ周知を進め指導に生かすことができた。						
○実施校の中には、実施後の休み時間を活用して全校で活動したり、活動中の動きをヒントにした道具を遊びの中に取り入れたりしている学校が増え、基礎的な運動能力向上につながっている。						
○陸上競技記録会や水泳競技記録会への参加を通して、記録への挑戦やチャレンジする意欲を高めるとともに、自己記録を目指し大会に向けて努力する気持ちを育成することができた。						
○万歩計を活用することで、日常的な運動に対する意識を高めることができた。						
点検結果・自己評価(課題・方向性)						
評価	B	○「運動遊びサポーター派遣事業」の実施により、子ども達が楽しみながら運動をすることができた。今後、実施時だけでなく、休み時間などにも取組みを活用し、十分な運動量が実施されるように働きかけていく。 ○50m走の記録が伸びない理由として、陸上競技の専門的な指導力不足が考えられる。今後、「運動遊びサポーター」事業を更に発展させ、3、4年生を対象に陸上の短距離走の向上を目指した「陸上指導サポーター」事業を実施していく。 ○万歩計の活用については、希望のあった学校の児童への貸し出しだけでなく、親子に貸し出すことで、保護者も一緒になって、日常的な運動への意識を高めていく。				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(5) 健康教育の推進
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健やかでたくましい体を育む指導を通して、健康的な生活行動が実践できる態度や能力を身につけるための教育活動を推進する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康課題をとらえ、日常生活での具体的実践に結びつく保健学習の充実を図る。 ・自校の健康課題を家庭、地域の関係機関と共有し、解決のための取組みを推進する。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○年間指導計画に基づいた保健学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康の保持増進を目指す実践力の育成のため、年間計画に基づいた保健学習を適切に行うよう指導した。 <p>○学校保健委員会の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会等を中心に、児童生徒の健康に関する生活習慣の実態調査等を行い、問題点の洗い出しや改善方策について検討するように指導した。 <p>○酒田飽海児童生徒保健研究発表会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や生徒主体の取組みを発表し、お互いに見合うことで、健康に対する意識を高めたり、自校の取組みを振り返らせたりすることができた。 	
事業の成果	
<p>○計画的な保健学習を行うことで、生涯にわたる健康の保持を意識することができた。</p> <p>○学校保健委員会やPTAの活動として、「早寝早起き朝ごはん」等の生活リズムを目的にした取組みが多く学校で行われるようになった。</p> <p>○校医とも連携し、うがい、手洗いの励行など、感染症予防の取組みやアレルギー対策の取組みが、多くの学校で行われた。</p> <p>○保健学習などにおいても、ゲストティーチャーを招聘して、より専門的な学習に取り組む学校もあった。</p> <p>○自校の健康課題についての取組みを児童生徒が主体的にまとめて発表する活動を通して、心身の健康の保持増進を目指す実践力を育てることにつながっている。</p> <p>○生活リズムやアウトメディアなど学校とPTAが連携した取組みも見られるようになってきた。</p> <p>○食物アレルギーの研修会を実施し、アレルギーのメカニズムや体調が悪くなった場合の対処方法等について、教職員から学んでもらうことができた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <p>○学校での取組みが広く行われており、日常生活での具体的な実践に結びつくように指導している。今後も、学校教育指導（経営訪問、計画訪問）を通して継続的に指導していき、健康教育の推進を図る。</p> <p>○酒田飽海学校保健会による「身体状況並びに学校保健活動状況一覧」を発行することにより、課題を共有し、解決のための取組みを推進する。</p> <p>○児童生徒保健研究発表会の成果や「生きる力を育む歯・口の健康づくり」に取り組んでいる学校の素晴らしい取組みを他の学校にも広めていく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成					
施策	(6) 食育の推進					
担当部署	管理課、学校教育課					
施策の目的及び目標						
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせるとともに、自然の恵みや生産者への感謝の心をはぐくむ。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元産野菜を積極的に学校給食に取り入れるために、小中学校給食での地元産野菜の利用率の目標を50%以上とする。 						
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況						
<p>○週5日、庄内産100%の米を利用した米飯学校給食を実施しているが、平成25年度は11月、1月及び2月に「つや姫給食」を実施した。</p> <p>○酒田の郷土料理や旬の食材を伝えるため、「食育の日献立」を実施した。(毎月19日)</p> <p>○栄養教諭等による巡回指導を実施した。(指導回数98回)</p> <p>○毎月「給食だより」を発行し、食材の情報提供を行った。</p> <p>○保護者に対し、栄養教諭等が食に関する講話(6回)を実施したり、「食育だより」を発行した。</p> <p>○酒田産米を100%使用した「米粉パン」給食を実施し、小学校6校で各1回実施した。</p> <p>○地元産野菜の利用率</p>						
	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)	31年度 (目標)	算出方法
小学校	39.4% (36.5%)	38.7% (33.2%)	36.0% (31.9%)	50%	50%	重量ベースによる 地元産野菜の 利用率
中学校	35.7% (31.2%)	28.7% (26.6%)	28.1% (23.1%)	40%	50%	
※数値は県内産野菜の利用率()内は庄内産の利用率						
事業の成果						
<p>○米飯給食、食育の日献立等の実施を通して、酒田らしい給食を提供することができた。</p> <p>○栄養教諭等の巡回指導により、食と健康について児童生徒の理解を深めることができた。</p> <p>○講演や資料提供により、家庭に対する食の大切さを伝えることができた。</p>						
点検結果・自己評価(課題・方向性)						
評価	B	<p>○学校給食は、学びや運動の基礎となる健康づくりや給食ができるまでの社会の仕組みを教えるための生きた教材として活用している。また、学校給食の提供だけではなく、児童生徒への意識付け、家庭での実践も大切なことから、栄養教諭等による子どもたちへの指導、保護者に対する食育指導にも取り組んでいる。これらの継続した取り組みが、将来自立した健康管理、食事管理ができる大人になることにつながるものと期待される。</p> <p>○地元産野菜については、減少傾向にある。これは、献立を作成する時期と天候不順などによる地元産野菜の生育時期、収穫時期にずれが生じることで、地元産の利用率が減少したものと考えられる。しかし、「つや姫」や「米粉パン」を使用するなど酒田らしい給食を提供することができた。今後も野菜以外の食材も含め、地元産の利用を進めていく。</p>				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	2 豊かな心と健やかな体の育成
施策	(7) 安全教育、安全対策の推進
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する指導を通して、命を守る安全教育の推進を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する知識や対応、行動の仕方について、具体的な場面を想定した実践的な指導を推進する。 ・日常的な指導を工夫することにより、児童生徒が安全に関して主体的に判断し行動できる能力を高める。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○「非常災害対策と防止計画」の各学校ごとの作成（昨年度に作成したものの見直し）と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災発生時、地震及び津波発生時、不審者侵入時など、具体的な場面を想定した訓練の実施を行い、避難場所や経路など実施をふまえた改善を進めるよう指導した。 <p>○年間指導計画に基づいた交通安全教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期の初発指導や特別活動等の時間において、交通安全教室や安全な登下校についての指導が行われている。 <p>○通学路の安全点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに各校の通学路について安全点検を行った。次年度の統合を予定している学校については前年度末に、両校合同で行った。 <p>○安全な登下校に向けた「見守り隊」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と酒田警察署の共催という形で、「子ども見守り隊リーダー研修会」を8月末に実施した。 	
事業の効果	
<p>○「非常災害対策と防止計画」の策定と改善によって、実際のその状況における行動とを想定した訓練が行われるようになった。具体的には、「児童向け行動マニュアル」と「教職員向け行動マニュアル」の両方を作成し、相互に関連付けながら、様々なケースに対応した防災計画を立てている学校が増えている。</p> <p>○各校の避難訓練の在り方が見直され、地震や津波の際の避難や休み時間に自分で判断して避難する訓練、保護者への引き渡し訓練、保育園や地域連携した訓練等、多くの学校が実施した。</p> <p>○年度始めの「通学路の安全点検」と、「学区安全マップ」による経年の点検箇所を照らし合わせながら、危険地点の洗い出しとその対応を行うことができた。</p> <p>○各校における「見守り隊との対面式」や「こども110番連絡所」の設定箇所確認を通して、登下校時に危険を感じたときや困ったとき、頼れる人や場所がすぐ思い浮かぶような体制づくりが整ってきた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者の協力を得ながら、ハザードマップを用いた避難場所の確認や児童の引き渡し方法のシミュレーションなど、現実的な訓練を実施している学校が増えた。 ○「自分の命を自分で守る」という意識が十分に育っているとは言えない。休み時間や放課後等、指示がなくとも適切な行動を選択、判断する力を養う必要がある。 ○「見守り隊」による活動は、交通安全意識の向上に加え、地域の防犯機能や抑制機能の向上から有効であり、実際に声かけ事案や不審者情報などの注意喚起（メールやファックス）も減ってきている。今後も地域・学校・警察との連携を深める。 ○災害時の訓練は重点化なされているものの、日常生活における怪我や交通事故等の報告には減少の傾向が見られない。日常的な危険予測能力の育成や、交通マナーとルールへの遵守に対する意識を高める指導を工夫していく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ II 世代を超えてまなびあう	
基本施策	I-3 家庭、学校、地域との連携、II-6 生涯学習の充実	
施策	I-3-(1) 青少年の健全育成 I-3-(3) 地域教育力の向上 II-6-(4) 地域活動の活性化	
担当部署	社会教育課	
施策の目的及び目標		
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが社会の変化を生き抜いていくための力を身につけるため、家庭・学校・地域がそれぞれの教育力を生かしながら相互の連携を深め、青少年の健全育成を図る。 青少年の健やかな成長を促すために「地域との関わり」を推進することで、将来の地域のリーダー育成、活気あるまちづくりにつなげ、地域の教育力向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校(PTA)と地域が協同して行う学習機会の充実を図る。 地域の特色を生かして行う青少年の体験活動や健全育成に関わる事業を通して、地域全体で取り組む体制づくりと地域の人材育成を推進し地域教育力の向上を図る。 青少年のボランティア活動を推進し、中高生の地域活動への促進を図り、地域のリーダー育成につなげる。 		
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況		
<p>○地域人材交流講座(生涯学習推進講座開催事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域において知識や技能を有する方から「地域の先生」として、小、中学生に伝統文化や農作業、ものづくりなどを指導していただき、地域に根ざした人材活用と異世代交流を進めた。 実施回数と人数：小学校250回、4,617人、中学校47回、1,462人、合計297回、6,079人 (前年度実績：小学校279回、5,332人、中学校49回、1,632人、合計328回、6,964人) <p>○地域の教育力向上事業【予算現額7,500千円】【決算額6,843,358円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子での共同作業や三世代交流事業、地域文化の学習と伝承、地域の自然理解などの事業を実施した。(実施団体 25団体、延べ事業数138事業、延べ参加人数11,606人) <p>○高校生ボランティア(かざみどり)が巨大迷路の運営プランに参画し、市内の高校ボランティア部と協力しながら当日までの準備と運営をおこない、8日間で約3,000人の方が入場した。</p>		
事業の成果		
<p>○地域人材交流講座では地域人材の活用が図られ、生徒の学びが広がった。さらに地域の指導者の方々は教える喜びや生きがいを見出している。</p> <p>○地域教育力向上事業では地域の人たちとのふれあい交流や体験(地域に伝わる伝統芸能・文化体験等)を継続して行うことで、社会のルールや地域理解を深め、伝統芸能等の後継者の育成も図られている。</p> <p>○高校生ボランティアかざみどりでは、これまでの活動を評価され「小さな親切実行章」「全国ボランティア・スピリット賞(コミュニティー賞)」「山新愛の鳩賞」を受賞し、メンバーの今後の活動への励みと自信につながった。また巨大迷路の運営を行ったことで、イベント企画に必要なことを学び、一緒に活動した仲間との交流も図られるなど青少年の人材育成につながった。</p>		
点検結果・自己評価(課題・方向性)		
評価	B	<p>○地域人材交流講座については、学校によって上限回数を超過して利用したいという希望もあることから、各学校の実情に応じた対応を検討。</p> <p>○コミュニティー振興会や学校に対して、積極的な事業展開が図られるよう定期的な訪問を通して相談体制をさらに強化する。</p> <p>○地域の先生が、高齢化に伴い減少することが懸念される。新たな人材確保を図るため、各コミュニティー振興会への働きかけを行っていく。</p> <p>○企画力向上のため、地域の職員対象のスキルアップ講座を実施し、地域の活性化を図る。</p> <p>○各支所地域の中高校生ボランティアとかざみどりが一体となって活動する機会を提供し、さらに仲間同士の交流や地域理解を深め、活動の幅を広げていくことで青少年の健全育成を推進する。また、26年度の松山・平田地区の中学校統廃合により、各地区(平田・松山)の中学生ボランティアについてのあり方について検討が必要となる。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ		
基本施策	3 家庭、学校、地域との連携		
施策	(2) 家庭教育の支援		
担当部署	社会教育課		
施策の目的及び目標			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもは「社会の宝」として親と子の学校・地域のつながりを作る取り組みを推進するとともに、子どもの成長段階に応じた学習と親の学びを支援する学習の機会を提供し、切れ目のない家庭教育に関する学習機会を充実させることで、家庭の教育力向上を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 切れ目のない家庭教育支援の充実のため、庁内各課との事業連携・調整を図りながら学習機会の充実を図る。 			
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況			
○生涯学習推進講座開催事業(家庭教育講座)			
事業名	講座内容及び実施状況	実施回数	人数
さんさん学級 (未就学児と保護者)	就園前の親子の触れ合いを推進するとともに、集団行動を学ぶ機会を提供した。いも掘り体験では地域の方々との交流も図った。 (陶芸、自然遊び、いも掘り、積み木等体験活動)	6	188
家族でわくわく自然遊び♪ (新)(4歳以上小学2年生と父母)	1部:秋の公園での親子散歩 2部:親子分かれての活動(親 読み聞かせと子育て講演 子 親への感謝状作り) 3部:子から親へ感謝状贈呈	1	24
「パパと一緒に」講座 (3～5歳児と父親)	父親と子どもとの交流を深めてもらうために(交流のきっかけづくり)、各種(1回目体操教室と自然遊び、2回目プランター作りとクッキング)ふれあい体験を実施。	2回×2回	104
すくすく出前講座 (保育園・幼稚園児と保護者)	親子体験・幼児体験(ネイチャー、リトミック、陶芸、ダンス、積木)を通して親子でのふれあい、遊びを通した人間形成の基礎を培った。	30園	1,737
家庭教育モデル講座 (保育園・幼稚園各1園)	就学前の児童がスムーズに入学するため、モデル園を指定して各種講座を実施し、検証する。(子育て講演会、マナー、食育、絵本等)	8回	250
地域家庭教育講座 (小中学校児童と保護者)	学校と連携し、家庭教育に係る講演会等(読み聞かせ・生活習慣・親の心構えと関わり方、親子レク等)実施した。	19校実施 20回	1,434
中学生生活をサポートする保護者 研修会(新)	小学校から中学校へ移行した思春期の子どもに寄り添い適切なサポートができるよう親の心構えを学ぶ	2校1団体 実施3	82
赤ちゃん登校日(新) (中・高校生)	乳児と母親とのふれあいを通して、家族の愛情に育まれ成長してきたことの喜びを感じてもらうことで、自己肯定感と生命の大切さを実感してもらい、将来親になることについて学ぶ機会の提供を行う。	3校実施 5回	118
思春期ママの子育て講座 (小中学生の子を持つ母)	思春期の子どもと体を育む栄養について学び、実際の実習を通して、日常生活に役立ててもらう。	2	19
子どもにかかるお金講座 (小中学生の子を持つ母)	子どもが成長し、自立するまでにかかるお金について学び、家庭でのライフプランを見直すきっかけにつなげる。	1	12
かんたん!かわいい!デコ弁つ くっちゃお♪講座(新)(小学低 学年の親子、高学年(子どものみ))	親子で一緒にお弁当を作ったり、自身でお弁当を作ることによって、家庭内での食育推進につなげる。	2	29
家庭教育講演会「講師:菊池桃子」 (新)	まちづくり推進課(男女共同参画)、子育て支援課(子育て支援)と連携して講演会を開催。公益ホールにて	1	400
・家庭教育講座 12講座 83回実施、延べ参加者4,397人(参考:平成24年度 7講座 77回実施、延べ参加者3,434人)			
事業の効果			
<p>○より多くの保護者に届けるために、保育園・幼稚園・学校での実施は保護者がより参加者しやすいため効果的な実施場所である。今後も継続した実施が望まれる。</p> <p>○将来親になる中学生と高校生を対象にした事業(赤ちゃん登校日)は、親の愛を再認識することで自己肯定感を育み、さらに将来親になることについて考えるきっかけとなり、切れ目のない家庭教育の充実を図った。</p> <p>○各課で行っている事業把握をすることで、連携した事業を行うことができた。(家庭教育講演会)</p> <p>○開催日や回数、内容を工夫したことで昨年度より受講者が増加したのもあった(パパと一緒に)</p>			
点検結果・自己評価(課題・方向性)			
評価	A	<p>○学校からの申請が伸び悩んでいる。学校経営決定前に事業協力依頼の調整等を行えればとも思うが、予算決定も踏まえる必要がある。</p> <p>○学校や地域への訪問を通し、事業理解を図り今後の利用促進につなげていく。</p> <p>○家庭教育支援はすぐには事業効果が表れなくいため、継続した取り組みが必要である。</p> <p>○今後も庁内の関係機関はもちろん、関係団体との連携した事業展開を考え、家庭教育力向上につなげていく。</p>	

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3 家庭、学校、地域との連携
施策	(4) 地域産業界、高等教育機関との連携
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の職業観の涵養や地域の理解、専門的な分野の体験のため地域の産業界や高等教育機関との連携を推進する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の職場体験学習（インターンシップ）の充実を図り、キャリア教育を推進する。 ・中村ものづくり事業の活動を通して、地域の高等教育機関、産業界との連携を推進する。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○中学生職場体験学習推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験実行委員会を組織して検討会や情報交換を行うとともに、体験学習のための資料の作成や職場体験後のまとめの作成等を各校毎に実施した。 ・体験先の主な職種として幼稚園・保育園、福祉施設、スーパー等の販売業、製造業などがある。 <p>○中村ものづくり事業における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり塾の講師として、酒田光陵高等学校、県立産業技術短期大学校、鶴岡工業高等専門学校から先生方からの協力を得て、ものづくり塾、サイエンスものづくりセミナー等を実施した。 ・夏休みに地元の企業への職場訪問を通して、専門的なものづくりの現場を体験することができた。 <p>○東北公益文科大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループエンカウンター、不登校保護者会の講師やものづくり事業の運営委員として助言をもらったり、学生ボランティア等の協力をいただいたりすることができた。 	
事業の成果	
<p>○中学生職場体験学習においては、市内全中学校で2日間以上の職場体験学習が実施でき、職業観の涵養とともに、実際に働くことの大変さや職場の方々との交流も図ることができた。</p> <p>○ものづくり事業においては、年間8回の「ものづくり塾」の他、「ものづくり科学教室」においては、酒田光陵高等学校の生徒からもボランティアスタッフとして参加してもらい、参加児童生徒にとっても、キャリア教育の良い機会となっている。</p> <p>○東北公益文科大学の先生方から、専門的な助言をもらい、事業に生かすことができた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生職場体験学習推進事業は、キャリア教育の推進に大いに寄与しているので、今後も継続していく。負担金を各学校への口座振り込みにしていく。 ○ものづくり事業についても、地域の産業界及び高等教育機関との連携が密に図られており、今後も継続していく。また、平成26年度は、米村でんじろう博士をお呼びし、10周年記念式典を開催する。 ○東北公益文科大学をはじめとした高等教育機関との連携を更に図ることにより、児童生徒にとってより専門的で、かつ幅広い事業の展開につなげていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	3 家庭、学校、地域との連携
施策	(5) 青少年指導活動の推進
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 次代を担う青少年が地域や社会の一員として主体的に未来を切り拓いていく資質を身につけ、その能力を発揮できるよう、青少年指導センターが中心となり青少年の健全育成を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 心豊かでたくましい青少年の育成と非行の未然防止に努める。 小・中・高等学校の生活指導・生徒指導担当者、警察等関係機関と連携を図りながら、幅広い活動を展開する。 街頭巡回指導と環境浄化活動の推進、相談活動の充実を図る。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○街頭巡回指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 昼間街頭指導、夜間街頭指導、特別街頭指導、広域列車乗車指導等を指導委員総勢250名で行った。 <p>○相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> 非行防止と問題行動の未然防止等、電話及び直接相談を行った。 <p>○環境浄化・広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く有害な環境を排除していくための活動を行った。 <p>○親子ふれあいレクリエーション大会の実施など、子ども達の健全育成に関する事業を行った。</p>	
事業の成果	
<p>○民生委員・児童委員協議会連合会、保護司会、更生保護女性会、警友会、少年補導員連絡会、青少年育成推進員連絡協議会、各小学校・中学校・高等学校より推薦いただいた指導委員250名の方々から協力をいただき、酒田市全域を通年にわたり、児童生徒への声かけを含む総合的な街頭指導を実施することができた。（指導した少年の延べ人数H25年度：299名、H24年度：362名）</p> <p>○青少年育成推進員の方々も、地域の見守り隊と一緒に、児童生徒の見守り活動を行うことができた。</p> <p>○相談については、相談者の年齢の幅が広いこともあり、内容が多岐にわたっている。相談件数は無言電話を含め特定の生徒からの電話相談が多かったため、増加している。（相談延べ件数 H25年度31件、H24年度24件）</p> <p>○有害図書類玩具自動販売機の青少年の利用がないように、見回りによる点検活動を行った。有害図書自動販売機の設置状況として、平成22年度まで4か所だったのが、平成23年度以降2か所に減っている。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○休日の中学生、高校生の行動（カラオケ・ゲームセンターの利用等）には、課題があるので、これまで以上に関係機関との連携、情報交換を密にしていくことで、非行の未然防止に努めていく。 ○「巡回中、子どもの姿がなかった」という報告が見られた。機械的に割り振りした計画から、長期休業中や振り替え休業日の街頭指導を充実させたり、巡回時間場所を検討したりして、ねらいをもった街頭指導を充実させていく。 ○「ネット上のいじめ」に対する取り組みとしてネット巡視活動を実施していく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4 教育環境の推進
施策	(1) 学校施設の整備
担当部署	管理課

施策の目的及び目標																			
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧耐震基準により設計された施設の耐震性能を高めるため、計画的に耐震診断を行い、必要に応じて改修及び改築を行うことにより、学校施設の耐震化を推進し、安全で安心な施設整備を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒田市の耐震化計画に基づき、平成31年度を目標に事情のあるもの以外の耐震化を図り、学校の良好な教育環境整備を目指す。 <p style="text-align: center;">学校施設の耐震化進捗状況</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度 (目標)</th> <th>31年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>65.4%</td> <td>82.1%</td> <td>92.5%</td> <td>85.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>79.4%</td> <td>82.3%</td> <td>93.9%</td> <td>90.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※数値は耐震化済みの学校施設割合（学校施設：校舎及び体育館） ※文部科学省は平成27年度で100%達成を掲げており、本市においても平成27年度達成を目標に取り組んでいる</p>			23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)	31年度 (目標)	小学校	65.4%	82.1%	92.5%	85.0%	100.0%	中学校	79.4%	82.3%	93.9%	90.0%	100.0%
	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)	31年度 (目標)														
小学校	65.4%	82.1%	92.5%	85.0%	100.0%														
中学校	79.4%	82.3%	93.9%	90.0%	100.0%														

平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>〔耐震関係事業〕</p> <p>○富士見小学校改修事業【予算現額214,753千円】【繰越額214,753千円】 【繰越明許費繰越額144,777千円】【決算額131,112千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎改修1期工事（老朽改修、トイレ改修）及び体育館改修工事（耐震補強、老朽改修、トイレ改修）を行った。 校舎改修2期工事（老朽改修、トイレ改修）は、平成26年度へ214,753千円繰越しした。 <p>○松陵小学校校舎等改修事業【繰越明許費繰越額227,880千円】【決算額189,084千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎改修2期工事（老朽改修、トイレ改修ほか）を行った。 <p>○泉小学校改修事業【予算現額238,894千円】【繰越額238,894千円】 【繰越明許費繰越額205,398千円】【決算額181,761千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎改修1期工事（耐震補強、老朽改修、トイレ改修）を行った。 校舎改修2期工事（老朽改修、トイレ改修）及び体育館改修工事（耐震補強、老朽改修、トイレ改修）は平成26年度へ238,894千円繰越しした。 <p>○飛鳥中学校改修事業【予算現額184,970千円】【決算額118,342千円】【繰越額61,138千円】 【繰越明許費繰越額852,401千円】【決算額803,625千円】 【継続費通次繰越額4,868千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎改修2期工事（耐震補強、老朽改修、トイレ改修）及び体育館の改修、改築工事を行った。 グラウンド改修工事は平成26年度へ61,138千円繰越しした。 <p>○亀城小学校改築事業【予算現額778,646千円】【決算額774,363千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎約5,000㎡の改築工事を行った。 	

〔その他の改修事業〕

○若浜小学校改修事業【予算現額41,801千円】【決算額14,072千円】【繰越額27,699千円】

・グラウンド改修工事は平成26年度へ27,699千円繰越した。

○松原小学校改修事業【繰越明許費繰越額48,285千円】【決算額30,225千円】

・グラウンド整備工事を行った。

○第二中学校改築事業【繰越明許費繰越額57,706千円】【決算額47,936千円】

・グラウンド整備工事を行った。

○鳥海八幡中学校改修事業【予算現額117,422千円】【決算額115,472千円】

・校舎の老朽改修の設計、改修工事を行った。

○施設整備事業（小学校）【予算現額25,209千円】【決算額25,171千円】

・小学校施設の改修を年次計画等に基づき行った。

・改修内容

プール塗装（浜中小学校、黒森小学校）プールろ材交換（琢成小学校他2校）

屋根修繕（一條小学校）防火シャッター改修（飛島小学校、鳥海小学校）

ダムウェーター改修（南平田小学校）ボイラー改修（十坂小学校）

F F ストープ改修（八幡小学校）

○施設整備事業（中学校）【予算現額7,554千円】【決算額7,554千円】

・中学校施設の改修を年次計画等に基づき行った。

・改修内容

屋根防水改修（第一中学校）防球ネット改修（第四中学校）

事業の効果

特別な事情のある学校以外の耐震診断は完了し、改修及び改築の計画を策定しながら工事の進捗を図り、学校施設の耐震化を推進することができた。

点検結果・自己評価（課題・方向性）

評価

A

○児童生徒の安全確保と災害時の地域の避難所としての機能確保のため、今後も学校耐震化を積極的に推進する必要がある。

○学校施設及び設備の老朽化改善のため、状態の確認、改修及び更新を年次的に進め、施設及び設備の長寿命化を図り、安全な教育環境の整備に取り組んでいく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4 教育環境の推進
施策	(2) 学校規模の適正化の推進
担当部署	管理課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化による児童生徒の減少と学校の小規模化が進む中、児童及び生徒の教育の機会均等と維持向上を図るため、学校規模の適正化を進め、教育環境の整備を図る。 <p>○目標</p> <p>酒田市立小・中学校の学校規模に関する基本方針</p> <p>1. 学校規模に関する基本的な考え</p> <p>(1) 小学校、中学校の標準とする学校規模は、12～18学級とする。</p> <p>(2) 複式学級の解消に努める。</p> <p>(3) 過大規模校は（31学級以上）は設置しない。</p> <p>2. 当面存続する規模</p> <p>当面存続する学校規模及び学級規模の指針として、次のように設定する。</p> <p>(1) 小学校 ①学校規模 児童数は100人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学級15人程度以上が確保できる規模</p> <p>(2) 中学校 ①学校規模 生徒数は270人程度以上が確保できる規模 ②学級規模 1学年3学級以上が確保できる規模</p> <p>3. 配慮事項</p> <p>学区の改編を進める際は、地域住民と十分な時間をかけて話し合い、理解と合意のもとに進める。</p> <p>○「学校規模に関する基本方針」に基づき、統合を実施した学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東平田小学校、中平田小学校、北平田小学校（平成25年4月統合） ・亀城小学校、港南小学校（平成26年4月統合） ・松山中学校、飛鳥中学校（平成26年4月統合） 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学区改編推進事業【予算現額1,148千円】【決算額844千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の適正規模及び適正配置について審議する学区改編審議会を開催した。 ・「亀城小学校と港南小学校」及び「松山中学校と飛鳥中学校」の統合準備委員会及び各部会を開催し、統合に向けた諸課題を協議した。 ・「学区改編だより」や「教育委員会からのお知らせ」を発行し、地域や保護者の方々に統合の計画や進捗状況等についての周知を図った。 ・松山3小学校（地見興屋小学校、松山小学校、内郷小学校）の統合に関する懇談会や地域説明会を開催し、地域や保護者の方々に教育委員会の考えを示すとともに意見交換を行った。 <p>○学校統合事業【予算現額12,179千円】【決算額11,088千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平田小学校の開校式を開催した。 ・亀城小学校、港南小学校、松山中学校及び飛鳥中学校の閉校（閉校式、閉校記念事業補助金等）及び亀ヶ崎小学校及び東部中学校の開校（開校式、校歌・校章デザイン作成委託、備品の移転等）に向けた諸準備を行った。 	
事業の効果	
<p>○平成26年4月、亀城小学校と港南小学校が統合して亀ヶ崎小学校が、松山中学校と飛鳥中学校が統合して東部中学校が開校したことにより、当該地域における適正規模の教育環境が整った。</p> <p>○松山3小学校の統合に関する懇談会や地域説明会を開催し、地域や保護者の方々と意見交換を行ったことにより、松山3小学校の統合についての理解が深まった。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○適正規模の教育環境が整ったことにより、教職員の指導体制や児童生徒相互の学びあう環境が充実し学校運営や児童生徒の学校活動等の活性化が図られた。 ○今後とも適正規模に課題がある小中学校については、地域住民と十分話し合い、理解と合意のもとに学校の適正規模及び適正配置に努めていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4 教育環境の推進
施策	(3) 通学の安全確保
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の通学の安全を確保するために、地域学校安全指導員の活動など、学校と地域の連携を深めるとともに、遠距離通学対策の充実を図る。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員や各学校の見守り隊及び関係機関との連携を図ることで、児童生徒が安全安心に登下校できるようにする。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○子どもの安全安心通学対策事業【予算現額2,059千円】【決算額2,052千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員5名及び各学校の見守り隊や酒田警察署との連絡調整を行った。 ・青色回転灯を装備した車両による防犯パトロールについて、見守り隊協力者と学校教職員23名が警察より証明を受けて、市教委として回転灯の貸与・パトロール車表示用ステッカー貸与を行った。 <p>○遠距離通学対策【予算現額37,029千円】【決算34,192円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期間は、小中学校とも概ね3km以上を対象とし、バス対応は約60日、定期券対応は約3か月分の経費の負担を行った。 <p>○スクールバスの運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年は、小学校概ね4km、中学校が概ね6km以上を対象として、スクールバス運行またはバス定期券の交付により実施している。 	
事業の成果	
<p>○学校と関係機関相互の情報交換や酒田警察署との連携した活動を行うことができた。</p> <p>○青色回転灯を装備してのパトロールが定着することで、安全安心な通学に寄与している。</p> <p>○遠距離通学の安全を確保するとともに、通学費用に係る保護者の負担軽減を図ることができた。</p> <p>○学校統合に当たってのスクールバス運行については、基準に照らしながら対応し、円滑なスタートに努めることができた。</p> <p>○通学路の合同点検については、既存の学校だけでなく、統合校についても準備段階の時から細やかに実施し、児童生徒の安全な登下校に向けて対策を講じることができた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見守り隊連絡協議会やリーダー研修会を通して、パトロール実施者の増員を今後とも呼びかけていく。 ○通学路の安全点検を学校、学校教育課、まちづくり推進課、土木課、警察などと連携して行い、改善すべき箇所について対応していくことで、児童生徒の通学路の安全確保に努めていく。 ○年度当初にメール配信システムの登録を呼びかけているが、登録の仕方を分かりやすくするための広報活動を実施していく。 ○スクールバスの運行については、各校の現状をきちんと把握した上で適正なバス運行に努める。また冬期間のバス運行についても地域の実態を把握した上で対応をしていく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4 教育環境の推進
施策	(4) 学習バスの運行
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市で保有する学習バスを積極的に活用し、小中学校の社会体験活動や自然体験活動などの、校外での学習活動を支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各学校等で行われる学習活動への積極的な支援を図るとともに、児童・生徒への安全に配慮した運行を行う。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学習バス・スクールバス管理事業【予算現額100,002千円】【決算額99,054千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市保有の2台の学習バスにより、市内小中学校の校外学習を実施している。 <p>○学習バスとして年間延べ963回運行した。（平成24年度883回、平成23年度678回）</p>	
事業の成果	
<p>○校外での直接の見聞による体験的活動をとおり、学習への関心・意欲等の高揚が図られた。</p> <p>○市が保有する学習バスの活用により、学習エリアの広域化が図られた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>A</p> <p>○年々増加傾向にある学習バスの利用について、校外学習のねらいを検討し、学習バスの活用が妥当であるかどうかを見極める必要がある。</p> <p>○学習バスを利用する際の、児童・生徒へのバス乗車マナーや交通安全意識の啓発も必要である。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ					
基本施策	4 教育環境の推進					
施策	(5) 学校ICT環境の整備充実					
担当部署	学校教育課					
施策の目的及び目標						
○目的						
・時代に対応したICT環境としていくために、教育用コンピュータ及び校務用コンピュータ等のICT機器の保守及び更新を定期的に進めるとともに、適正な運用を図る。						
○目標						
		23年度	24年度	25年度	26年度	31年度
授業でICT機器を使用できる教員の割合	小	69%	74%	83%	75%	100%
	中	60%	61%	55%	70%	100%
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況						
○デジタルキャンパスネットワーク【予算現額63,176千円】【決算額61,699千円】						
・小学校720台、中学校301台の教育用コンピュータを賃貸借契約により整備しており、H25年度は、126台更新した。						
・校務用コンピュータのサポート、サーバの保守を実施した。						
・校務用グループウェアの更新に伴う研修会を実施した。						
○情報教育担当者会、市教研視聴覚部会において、情報モラル教育及びICTを活用した授業について、研修会を実施した。						
事業の効果						
○パソコンの操作や授業においてICT機器を活用することを通して、情報化社会に生きる児童生徒に情報活用能力を育てることができた。						
○校務用グループウェアの使い方の研修会を通して、教育情報のデータベースを職員間で共有できるようになり、校務の効率化につながっている。						
○授業においてデジタルテレビを活用したり、ICT機器を活用した授業を工夫することにより、児童生徒の学習意欲を高めることができてきた。						
○平成25年度末、授業でICT機器を活用できる教員の割合は、小学校83%、中学校55%であり小学校では、大幅に向上し日常的にICT機器を活用した授業が行われるようになった。						
点検結果・自己評価（課題・方向性）						
評価	B	<p>○教育用コンピュータは、今後も児童生徒の情報活用能力の育成のため、定期的に更新しながら、賃貸借契約による整備を継続していく必要がある。</p> <p>○校務用コンピュータについては、平成22年度に一括で導入している経緯も踏まえ、今後、新しい機種に随時、更新していく必要がある。</p> <p>○更新したグループウェアをより効果的に活用するために、研修会を実施し、校務の効率化を今後も図っていく。</p> <p>○授業でICT機器を活用する教員の割合が、小学校では大幅に増え、日常的にICTを活用した授業が行われているが、中学校では、逆に減少してしまった。教科の特質に応じたICT機器活用方法について、更に研修を深めていく。</p>				

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ																																																																									
基本施策	4 教育環境の推進																																																																									
施策	(6) 教育の機会均等																																																																									
担当部署	管理課																																																																									
施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の経済状況にかかわらず、高等学校や高等教育機関への修学の機会が確保されるよう市独自の制度により経済的支援を行うことで子どもたちの教育を受ける権利の保障に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国、県など他の支援制度とのバランスを考慮しながら本市の支援制度を検討、維持し、経済情勢の変動に関わらず支援制度が広く市民に周知され、必要な市民が利用できるようにする。 																																																																									
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○京野基金大学修学奨励事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所得等の少ない世帯で、4年制国立大学法人立及び公立大学等に進学する本市出身の学生の保護者に対し入学時の支援として学生1人につき30万円を給付 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交付件数</td> <td>3件</td> <td>3件</td> <td>6件</td> <td>【周知実績】</td> </tr> <tr> <td>交付額</td> <td>900,000円</td> <td>900,000円</td> <td>1,800,000円</td> <td>市内高等学校7校に配布</td> </tr> </tbody> </table> <p>○大学等修学支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市出身の学生に対する修学に係る経済的支援を図るため教育ローンの利子補給金を交付 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規交付件数</td> <td>28件</td> <td>24件</td> <td>27件</td> <td>【周知実績】</td> </tr> <tr> <td>継続交付件数</td> <td>54件</td> <td>48件</td> <td>44件</td> <td>高校、大学、金融機関など</td> </tr> <tr> <td>交付件数計</td> <td>82件</td> <td>72件</td> <td>71件</td> <td>23機関に配布</td> </tr> <tr> <td>交付額</td> <td>2,866,382円</td> <td>2,488,083円</td> <td>2,621,869円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○私立高等学校生徒授業料軽減事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立高等学校に在籍している生徒の授業料等にかかる諸経費の負担軽減を図るため、所得等の少ない世帯の保護者に対し補助金を交付 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活保護世帯</td> <td>4件</td> <td>6件</td> <td>4件</td> <td>【周知実績】</td> </tr> <tr> <td>市民税非課税世帯</td> <td>62件</td> <td>64件</td> <td>68件</td> <td>県内各私立高校に配布</td> </tr> <tr> <td>均等割額のみ課税世帯</td> <td>42件</td> <td>37件</td> <td>40件</td> <td>(市内3校、市外13校)</td> </tr> <tr> <td>交付件数計</td> <td>108件</td> <td>107件</td> <td>112件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交付額</td> <td>3,984,000円</td> <td>3,996,000円</td> <td>4,128,000円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考	交付件数	3件	3件	6件	【周知実績】	交付額	900,000円	900,000円	1,800,000円	市内高等学校7校に配布	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考	新規交付件数	28件	24件	27件	【周知実績】	継続交付件数	54件	48件	44件	高校、大学、金融機関など	交付件数計	82件	72件	71件	23機関に配布	交付額	2,866,382円	2,488,083円	2,621,869円		区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考	生活保護世帯	4件	6件	4件	【周知実績】	市民税非課税世帯	62件	64件	68件	県内各私立高校に配布	均等割額のみ課税世帯	42件	37件	40件	(市内3校、市外13校)	交付件数計	108件	107件	112件		交付額	3,984,000円	3,996,000円	4,128,000円	
区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考																																																																						
交付件数	3件	3件	6件	【周知実績】																																																																						
交付額	900,000円	900,000円	1,800,000円	市内高等学校7校に配布																																																																						
区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考																																																																						
新規交付件数	28件	24件	27件	【周知実績】																																																																						
継続交付件数	54件	48件	44件	高校、大学、金融機関など																																																																						
交付件数計	82件	72件	71件	23機関に配布																																																																						
交付額	2,866,382円	2,488,083円	2,621,869円																																																																							
区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考																																																																						
生活保護世帯	4件	6件	4件	【周知実績】																																																																						
市民税非課税世帯	62件	64件	68件	県内各私立高校に配布																																																																						
均等割額のみ課税世帯	42件	37件	40件	(市内3校、市外13校)																																																																						
交付件数計	108件	107件	112件																																																																							
交付額	3,984,000円	3,996,000円	4,128,000円																																																																							
事業の効果	<p>平成25年度において給与所得者数は対前年度比で0.1%増となり、課税標準額では、対前年度比で100万円以下の人員が0.6%増、100万円超～400万円以下の人員が1.2%増となっている。このことから、各事業の所得判定に使用する市民税の課税状況において、中間所得層の増加傾向がみられる。</p> <p>こうした状況の中で、京野基金大学修学奨励事業及び私立高等学校生徒授業料軽減事業については、前年度以上の実績を残しており、大学等修学支援事業については、交付件数が全体で1件減少しているものの、新規交付件数は3件の増となっていることから、一定の周知および教育機会の確保の機能は果たされているものと考え。</p>																																																																									
点検結果・自己評価（課題・方向性）																																																																										
評価	A	<p>○事業の効果の記載のとおり周知についてはある程度実施出来ており、制度自体は一定の役割を果たしていると評価。</p> <p>○本市に住む子どもたちが家庭の経済状況に影響を受けることなく教育を受ける機会を確保できるように、国や県の類似する制度及び民間の修学支援事業等との関連を随時確認しながら、今後も制度改正及び周知方法について状況に応じて対応していく。</p>																																																																								

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	4 教育環境の推進
施策	(7) 私立学校等の振興
担当部署	管理課

施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の教育理念のもと、本市の教育振興に貢献している私立高等学校の健全な運営に資する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済状況及び人口減少などの状況と補助内容を考慮しながら、子どもたちが教育を受ける機会の均等化を図るため補助金を交付する。
-----------	---

平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○私学振興補助事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市に住所を有する私立高等学校の健全な運営に資するため、私立高等学校を設置する学校法人に対し、酒田市私立高等学校運営費補助金を交付 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酒田南高等学校運営費補助金</td> <td>1,400,000円</td> <td>1,400,000円</td> <td>1,400,000円</td> </tr> <tr> <td>天真学園高等学校運営費補助金</td> <td>1,400,000円</td> <td>1,400,000円</td> <td>1,400,000円</td> </tr> <tr> <td>和順館高等学校運営費補助金</td> <td>350,000円</td> <td>350,000円</td> <td>350,000円</td> </tr> <tr> <td>交付額 計</td> <td>3,150,000円</td> <td>3,150,000円</td> <td>3,150,000円</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	酒田南高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円	天真学園高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円	和順館高等学校運営費補助金	350,000円	350,000円	350,000円	交付額 計	3,150,000円	3,150,000円	3,150,000円
区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度																		
酒田南高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円																		
天真学園高等学校運営費補助金	1,400,000円	1,400,000円	1,400,000円																		
和順館高等学校運営費補助金	350,000円	350,000円	350,000円																		
交付額 計	3,150,000円	3,150,000円	3,150,000円																		

事業の効果	<p>本市の教育振興等に貢献している私立高等学校の健全な運営のために補助金を交付しているが、本市においては、16～18歳人口の減少とともに私立高等学校の生徒数についても減少傾向にある。しかしながら、市内の高校生人数に占める私立高校生徒数の割合が2割を超えていることから考慮すると、私立高等学校は本市の教育において大きな役割を担っていると言える。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公立高等学校生徒数・・A</td> <td>2,552人 (100.0)</td> <td>2,425人 (95.0)</td> <td>2,438人 (95.5)</td> </tr> <tr> <td>私立高等学校生徒数・・B</td> <td>817人 (100.0)</td> <td>770人 (94.2)</td> <td>710人 (86.9)</td> </tr> <tr> <td>市内高等学校生徒数・・C=A+B</td> <td>3,369人 (100.0)</td> <td>3,195人 (94.8)</td> <td>3,148人 (93.4)</td> </tr> <tr> <td>私立高等学校生徒数率・B/C</td> <td>24.3% (100.0)</td> <td>24.1% (99.4)</td> <td>22.6% (93.0)</td> </tr> <tr> <td>市内16～18歳人口</td> <td>3,158人 (100.0)</td> <td>3,047人 (96.5)</td> <td>2,966人 (93.9)</td> </tr> <tr> <td>私立高校教員数</td> <td>72人 (100.0)</td> <td>74人 (102.8)</td> <td>74人 (102.8)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※カッコ内は平成23年度の各数値を100として比較したもの ※生徒数及び教員数は各年5月1日現在の数値から算定（市勢要覧より） ※16～18歳人口は各年3月末日の数値から算定（住民基本台帳より）</p>	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	公立高等学校生徒数・・A	2,552人 (100.0)	2,425人 (95.0)	2,438人 (95.5)	私立高等学校生徒数・・B	817人 (100.0)	770人 (94.2)	710人 (86.9)	市内高等学校生徒数・・C=A+B	3,369人 (100.0)	3,195人 (94.8)	3,148人 (93.4)	私立高等学校生徒数率・B/C	24.3% (100.0)	24.1% (99.4)	22.6% (93.0)	市内16～18歳人口	3,158人 (100.0)	3,047人 (96.5)	2,966人 (93.9)	私立高校教員数	72人 (100.0)	74人 (102.8)	74人 (102.8)
区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度																										
公立高等学校生徒数・・A	2,552人 (100.0)	2,425人 (95.0)	2,438人 (95.5)																										
私立高等学校生徒数・・B	817人 (100.0)	770人 (94.2)	710人 (86.9)																										
市内高等学校生徒数・・C=A+B	3,369人 (100.0)	3,195人 (94.8)	3,148人 (93.4)																										
私立高等学校生徒数率・B/C	24.3% (100.0)	24.1% (99.4)	22.6% (93.0)																										
市内16～18歳人口	3,158人 (100.0)	3,047人 (96.5)	2,966人 (93.9)																										
私立高校教員数	72人 (100.0)	74人 (102.8)	74人 (102.8)																										

点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>A</p> <p>○私立高等学校は独自の教育理念のもと本市の教育振興等に貢献しており、また、本市の子どもたちの教育において、教育の機会均等及び子どもたちの教育を受ける権利の保障の一助として欠かせない存在となっており、本市にある私立高等学校の健全な運営のための支援策としての補助金交付は妥当なものである。</p> <p>○本市においても、今後、少子化が進んでいくことが明らかな状況であるが、本市の子どもたちの教育を受ける機会の均等化において欠かせない役割を担う私立高等学校の健全な運営のために、県の補助制度を踏まえながら引き続き支援を行っていく。</p>

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	(1) 教職員研修等の充実
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくりを推進するため、教員の指導力向上や資質向上のための研修活動、教員評価を実施する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校研究に沿った授業研究会への指導主事派遣を充実させて、指導力の向上を図る。 ・各種研修会及び各校での授業研究会を通し、教職員としての資質向上を図る。
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>○初任者研修、教職10年経験者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の初任者研修として「学級づくり研修」「市内教育施設の訪問」等を実施した。(該当者9名) ・市の教職10年経験者研修は、5月に全体研修「服務研修」「少年非行の傾向」「防災教育」を、テーマに、7・8月に「知見を広める体験研修」として、企業や福祉施設等における体験的研修を実施した。(該当者8名) <p>○各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導力向上のための研修 理科教育センター事業として研修会を4回開催(延べ45名参加) 市教育研究所の各部会で教科指導等の研修会を合計35回開催 ・児童生徒理解のための研修 教育相談研修講座を4回開催(延べ557名参加) 教育相談担当者を対象とした実践力を育成する研修会を4回開催 ・特別支援教育のための研修 特別支援教育研修会を2回開催(延べ213名参加) <p>○教職員評価の試行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が自己目標を設定し、個人や組織としての工夫を図り、資質の向上に努めた。
事業の効果	<p>○初任者研修では、教員としての自覚を高め、責任の重さに気付くとともに、市内教育施設の訪問を通して、関係機関との連携の大切さと学校教育の役割を再認識することができた。</p> <p>○教職10年経験者研修では、民間企業や福祉施設における体験的研修を通して、仕事の厳しさや働く喜び、社会に貢献することの大切さを実感することができた。</p> <p>○教科指導力向上のための研修会では、算数・数学において、文部科学省より調査官を招聘し授業改善に向けた実践的な研修を行うと共に、小中が連携した指導の在り方について研修を深めることができた。</p> <p>○教職員評価の実施により、自己目標の設定と達成に向けての取組みの中で、教員の学校経営参画意識を高めることができた。</p>
点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○初任研及び経験者研においては、教員の経験年数に応じた実践的な研修を実施することができ、教員としての資質の向上につなげることができた。 ○各種研修会においては、特に教育相談研修講座において、様々なテーマに応じた研修会を開催することにより、多くの教員から研修を積んでもらうことができた。 ○算数・数学の学力向上が、課題であり、そのための研修会の充実を図っている。今後、研修で学んだことを日々の授業に活用し、学力の向上につなげていく。 ○学級集団づくりに関係するQ-Uテストの研修等も今後実施していきたい。 ○計画的な教職員評価の実施により、教員の意欲を更に高めていきたい。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	(2) 学校運営の公開と学校評価システムの推進
担当部署	学校教育課
施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼され開かれた学校づくりを進めるために、保護者や地域住民の学校運営への参画や教育活動等の評価システムの機能を充実させる。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校と地域が一体となった地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを進める。 ・より良い学校運営につなげる学校評価システムを推進していく。 	
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
<p>○学校評議員会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関して第三者の意見を生かしていくために、全小中学校で学校評議員の委嘱を行った。学校の教育活動や開校に向けて、貴重な意見をもらうことができた。 <p>○学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学校も自己評価、学校関係者評価を実施している。学校経営に関する児童生徒、保護者、教職員のアンケートを実施、分析、改善するとともに、学校評議員に提示しての学校関係者評価を行い、学校経営の改善につなげている。 ・評価項目を絞りこみ、学校の重点やよさ、課題について、PDCAのサイクルで実施するという工夫がみられる。 	
事業の成果	
<p>○学校評議員会の開催により、学校が進もうとしている方向性や取組みのねらいなどを理解してもらうことで、地域から協力いただくことが増えてきた。また、ホームページを公開する学校が増え、学校の運営方針や児童生徒の活躍の様子をインターネット上で公開している学校も多くなった。</p> <p>○地域の方々に授業や学校経営の方針等を公開することで、学校・家庭・地域が、学校の教育目標を共有し、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>○アンケート結果をもとにした自己評価や学校関係者評価の実施により、地域の思いや願いが、学校経営にも反映し、児童生徒の学校生活の充実につながっている。</p> <p>○学校評価の結果を学校便りなどで地域の方々や保護者にお知らせすることで、子どもたちの様子やうれしい情報を学校にいただけるようになってきた。</p>	
点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校の課題に対する幅広い意見を集約する観点から、人選のありかたを検討してもらうよう各校に働きかけていく。 ○学校評議員にも学校評価のねらいや観点、評価の具体的な場面を示しながら、年間計画に基づいて計画的に、学校経営について意見を求めていくよう学校に働きかけていく。 ○学校経営の改善に生きる評価システムにしていくために、年度初めに、重点や学校課題（評価の観点や評価の場面）を具体的に保護者や地域の方々に示すよう各校に指導していく。

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ														
基本施策	5 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進														
施策	(3) 特色ある学校づくりの推進														
担当部署	学校教育課														
施策の目的及び目標															
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校において、地域社会や児童生徒の実態に応じた明るく楽しい元気な学校づくりを進め、自主的・自律的な学校運営が推進されるように支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校が設定したテーマ及び観点に沿った評価（5段階）を行い、「4」以上の学校数を85%にする。 															
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況															
<p>○明るく楽しい元気な学校づくり支援事業【予算現額5,250千円】【決算額4,893千円】</p> <p>1校あたり15万円を上限とする交付金をもとに、各学校でテーマ及び具体的な教育活動を設定し実践した。</p> <p>取り組んだ主な教育活動</p> <table border="0"> <tr> <td>・地域連携、地域学習等の活動</td> <td>26校</td> </tr> <tr> <td>・児童生徒の感性を育てる活動</td> <td>25校</td> </tr> <tr> <td>・学校美化、地域環境保全活動</td> <td>10校</td> </tr> <tr> <td>・児童会・生徒会活動への支援</td> <td>7校</td> </tr> <tr> <td>・学級経営、学習活動の推進</td> <td>18校</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">※学校数は延べ数</p> <p>交付金の決算額</p> <table border="0"> <tr> <td>・15万円</td> <td>17校</td> </tr> <tr> <td>・15万円未満</td> <td>18校</td> </tr> </table>		・地域連携、地域学習等の活動	26校	・児童生徒の感性を育てる活動	25校	・学校美化、地域環境保全活動	10校	・児童会・生徒会活動への支援	7校	・学級経営、学習活動の推進	18校	・15万円	17校	・15万円未満	18校
・地域連携、地域学習等の活動	26校														
・児童生徒の感性を育てる活動	25校														
・学校美化、地域環境保全活動	10校														
・児童会・生徒会活動への支援	7校														
・学級経営、学習活動の推進	18校														
・15万円	17校														
・15万円未満	18校														
事業の効果															
<p>○成果については、各学校で設定した2～4項目の観点から、活動の観察やアンケート学校内外の評価の結果を5段階で評価した。平均「4」以上の学校は、35校中31校で88.57%となった。（平成24年度86.49%）</p> <p>○取り組む内容をテーマ化したことで、児童生徒が、より豊かな学校生活を送ることができた。</p> <p>○地域の人材や地域素材を生かした学習活動を通して、地域の人々とのふれあいを深め優しい心、郷土を愛する心を育むことができた。</p> <p>○児童生徒一人ひとりの実態を把握し、よりよい人間関係を構築するとともに、学習に対する興味、関心を高めることができた。</p> <p>○花と緑の潤いのある学習環境づくりにより、植物を大切にしながら花の観察や学習に役立てることができた。</p>															
点検結果・自己評価（課題・方向性）															
評価	<p>A</p> <p>○「明るく楽しい元気な学校づくり支援事業」と名称を変更し、目指す学校像、児童生徒像の具現化に向けた教育活動の支援が図られた。</p> <p>○各学校で、前年度事業評価において達成度の低かった項目について原因を究明し改善点などを検討のうえ事業に取り組んだ結果、評価の向上が図られた。</p>														

基本的方向	I 明日を担う子どもたちの生きる力をはぐくむ
基本施策	5 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進
施策	(4) 学校施設の地域開放の推進
担当部署	管理課

施策の目的及び目標	
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校施設を学校運営や安全管理に支障のない限りにおいて地域に開放し、学校が地域住民の生涯学習及び生涯スポーツ活動の一拠点として役割を担っていくことで、学校と地域の連携を深めていく。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全ての小中学校において、学校と地域との相互の連絡調整のもとに学校開放を実施する。目標数値：実施率100% 	

平成25年度 主な事業の概要及び実施状況

○学校開放実施率

		平成23年度	平成24年度	平成25年度
小学校	学校数	29校	29校	27校
	実施校数	29校	29校	27校
	実施率	100.0%	100.0%	100.0%
中学校	学校数	10校	9校	9校
	実施校数	10校	9校	9校
	実施率	100.0%	100.0%	100.0%

○平成25年度一校当たりの週平均稼働日数 単位：日/週

	小学校				中学校				全体
	市	街	地	旧公民館地区 総合支所管内	市	街	地	旧公民館地区 総合支所管内	
体育館	4.8	6.0	4.9	2.9	3.8	5.2	2.5	2.9	4.5
グラウンド	3.1	4.5	2.6	2.0	0.7	0.7	0.4	1.1	2.5

※グラウンドについては冬季を除く期間（4月～11月）において週平均を算出

事業の成果

一校当たりの週平均稼働日数をみると、体育館が4.5日/週、グラウンドが2.5日/週となっている。

中学校においてグラウンドの稼働日数の数値が低いのは、部活動に使用されていることによって一般の使用が難しくなっているものと分析され、この点を考慮すれば、学校施設は高い頻度で生涯学習や生涯スポーツ等の地域活動に利用されていると言え、学校開放が学校と地域とが関わる機会を創出する役割を果たしているものと考えられる。

点検結果・自己評価（課題・方向性）

評価	A	<p>○学校開放の実施率は平成25年度においても100%の実施率であり、過去3年間の実施率からも、学校開放の制度が地域に浸透しているものと考えられる。</p> <p>○学校施設の利用については、学校が地域の利用団体と連絡を密に取りながら調整して実施している点及び利用頻度が高い点から考慮すると、学校開放が学校と地域の関わりの機会となっているものとして評価できる。</p> <p>○今後も、学校が地域の生涯学習及び生涯スポーツの一拠点として機能し、また、学校と地域が繋がる機会として継続して実施する。</p>
----	---	---

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう
基本施策	6 生涯学習の充実
施策	(1) 生涯学習推進体制の整備(2) 生涯学習社会の基礎づくり(3) 学習機会の提供(4) 地域活動の活性化
担当部署	社会教育課

施策の目的及び目標	
○目的 ・心豊かで充実した人生を送るため、生涯にわたり主体的に市民が自ら学び、それを地域に生かす「知の循環型社会」を目指す。	
○目標 ・市民が「いつでも、どこでも、だれでも」気軽に参加できる講座の開催するとともに、「個人のニーズ」と「社会の要請」の学習機会をバランスよく提供する。 ・地域のリーダー・指導者育成の講座にも取り組み、学んだ成果を社会に生かす仕組み作りを行い、地域の活性化に取り組む。 ・講座・サークル・指導者等の情報提供の充実を図り、市民が学習しやすい環境づくりを行う。 ・講座に対する満足度 平成31年度目標値87%(生涯学習推進計画)	

平成25年度 主な事業の概要及び実施状況																																					
○生涯学習推進講座開催事業 ・市民がいつでも、どこでも、だれでも気軽に生涯学習できるよう、幼児から成人までの幅広い年代層を対象とした講座を57講座、615回開催して、延べ参加人数は39,841人となった。																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>各時期等</th> <th>講座数</th> <th>実施回数</th> <th>延べ参加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼児講座</td> <td>4</td> <td>22</td> <td>1,210</td> </tr> <tr> <td>少年講座</td> <td>8</td> <td>365</td> <td>8,948</td> </tr> <tr> <td>青年講座</td> <td>5</td> <td>35</td> <td>415</td> </tr> <tr> <td>成人講座【教養・文化・健康講座】</td> <td>15</td> <td>73</td> <td>1,199</td> </tr> <tr> <td>家庭教育講座</td> <td>12</td> <td>83</td> <td>4,397</td> </tr> <tr> <td>指導者養成講座</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>248</td> </tr> <tr> <td>催し</td> <td>7</td> <td>24</td> <td>23,424</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>57</td> <td>615</td> <td>39,841</td> </tr> </tbody> </table>	各時期等	講座数	実施回数	延べ参加	幼児講座	4	22	1,210	少年講座	8	365	8,948	青年講座	5	35	415	成人講座【教養・文化・健康講座】	15	73	1,199	家庭教育講座	12	83	4,397	指導者養成講座	6	13	248	催し	7	24	23,424	計	57	615	39,841
各時期等	講座数	実施回数	延べ参加																																		
幼児講座	4	22	1,210																																		
少年講座	8	365	8,948																																		
青年講座	5	35	415																																		
成人講座【教養・文化・健康講座】	15	73	1,199																																		
家庭教育講座	12	83	4,397																																		
指導者養成講座	6	13	248																																		
催し	7	24	23,424																																		
計	57	615	39,841																																		
○松山歴史公園整備事業【予算現額 159,966千円】【決算額 159,505千円】 ・公園整備は、保育園の解体、多目的広場・駐車場の整備を行った。伝習機能施設整備は建築工事を行った。整備にあたって、地域住民や利用団体との合意形成を図っている。																																					

事業の成果	
○東北公益大学市民大学講座の夜の部では、これでの講義形式から自ら地域の課題を見つけ、解決するための手段を考えるワークショップ形式に変更して実施し、受講生の意識向上を図った。	
○青年講座(アイドルデザイン)では、成果発表として甚句流しの踊りパレードや生涯学習まつりに参加し、若者の地域参加を促した。	
○平成25年度に2つの自主サークルが発足し活動している。さらに25年度実施した講座より平成26年度から2つのサークルが発足予定である。継続した学びの推進につながったものと考えられる。	
○講座終了後のアンケートにより講座満足度は90%となり、目標を達成している。	

点検結果・自己評価(課題・方向性)	
評価	A
	○庁内他部署との連携をさらに深めながら事業実施する。 ○「知の循環型社会」を実現するために、指導者の人材登録・育成について引き続き積極的に推進する必要がある。 (指導者登録者 平成25年度 新規7名 計 54名)

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう	
基本施策	6 生涯学習の充実	
施策	(5) 学習団体及び社会教育関係団体への支援と連携	
担当部署	社会教育課	
施策の目的及び目標		
<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習団体による自主活動を推進するため運営に対し支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各補助団体が円滑な運営を行い、広く市民の生涯学習の推進を図る。 		
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況		
○生涯学習振興支援事業 【予算現額 799千円】 【決算額 799千円】		
補助団体	補助金額	活動内容
酒田市子ども会育成連合会	90千円	各学区総会や関係団体会議との連携、子どもまつり参加、親子ふれあい遊びの楽校、リーダー学習会、会報発行ほか
酒田海洋少年団	144千円	子どもまつり参加、海浜清掃ボランティア、合宿訓練、東北地区指導者研修会、全国大会ほか
酒田市婦人会連絡協議会	330千円	関連団体との連携、酒田・飽海地方婦人大会、リーダー研修会ほか
酒田市青少年を伸ばそう市民会議	135千円	青少年の健全育成に係る会員研修、街頭啓発活動、巡回指導、会報発行ほか
酒田市白鳥を愛する会	100千円	自然環境づくり（マコモ植栽）、花植え環境整備、学校への出前講座、スワンパーク清掃、白鳥観察会ほか
○生涯学習施設「里仁館」支援事業 【予算現額 7,300千円】 【決算額 7,300千円】		
教養講座や親子講座、特別講座等で48テーマ、開講数100回、延べ3,962人が受講した。		
事業の効果		
<p>○この事業による補助金の交付で、青少年の健全育成や生涯学習活動などを行うそれぞれの団体活動の円滑な運営に資することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会育成連合会⇒リーダー育成研修会、安心安全マップ作り等により子ども達の安心安全な生活の実現に資することができた。 ・青少年を伸ばそう市民会議⇒青少年育成環境浄化や啓発活動の徹底が図られた。 ・白鳥を愛する会⇒マコモの植栽等による環境整備活動により、白鳥が飛来する自然環境が整えられ、市民の情操教育支援に資することができた。 ・生涯学習施設「里仁館」支援事業⇒里仁館の主催事業を通じ、庄内地域の生涯学習の振興が図られた。 		
点検結果・自己評価（課題・方向性）		
評価	<p>B</p> <p>○生涯学習団体が主体的に実施している有益な生涯学習活動に対して支援を行うことにより、団体の円滑な運営に資することができた。</p> <p>しかし、海洋少年団では団員の増加がみられたが、他の団体によっては会員の高齢化や減少により会の活動に影響が出てくること懸念される。活動内容を十分に把握し適正な補助が行われるよう注視していく必要がある。</p> <p>○生涯学習施設里仁館の講座運営状況は、前年度より利用者数が増加し順調に取り組まれている。学習内容を常に精査のうえ、多くの市民より参加いただける学習内容の充実に努めていただく。</p>	

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう
基本施策	7 図書館活動の充実
施策	(1) 図書館機能の充実
担当部署	図書館

施策の目的及び目標																			
○目的 ・市民の読書活動の拠点として各種図書資料をバランスよく収集し、窓口サービスの提供等を通して、知識や教養の習得機会を提供する。																			
○目標																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度 (目標)</th> <th>31年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>館外貸出冊数</td> <td>569,505冊</td> <td>550,436冊</td> <td>535,245冊</td> <td>587,000冊</td> <td>667,000冊</td> </tr> <tr> <td>館外貸出人数</td> <td>155,163人</td> <td>150,828人</td> <td>145,955人</td> <td>160,000人</td> <td>165,000人</td> </tr> </tbody> </table>		23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)	31年度 (目標)	館外貸出冊数	569,505冊	550,436冊	535,245冊	587,000冊	667,000冊	館外貸出人数	155,163人	150,828人	145,955人	160,000人	165,000人
	23年度	24年度	25年度	26年度 (目標)	31年度 (目標)														
館外貸出冊数	569,505冊	550,436冊	535,245冊	587,000冊	667,000冊														
館外貸出人数	155,163人	150,828人	145,955人	160,000人	165,000人														

平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	
○図書管理システムの更新 ・IC機器やインターネット等での利用者の利便性を継続しつつ更新を行った。	
○新刊図書の購入 ・一般図書等 9,771冊、児童図書等 3,528冊、雑誌等 2,068冊を購入し提供した。	
○図書リサイクルの実施 ・除籍本の有効活用のため図書リサイクルを開催し、439人の個人が参加した。	
○東北公益文科大メディアセンターとの連携 ・東北公益文科大メディアセンターを経由し297冊の貸出が行われた。	
○広報活動 ・市広報、図書館ホームページ、ハーバーラジオ及び外部情報サイト等を活用し、図書館のPRに努めた。	

事業の効果	
○図書管理システムの更新により、ホームページ上での貸出延長手続きも可能となるなど、利便性の向上を図るとともに、セキュリティ対策にも対応した。	
○ホームページでの貴重な図書資料の公開により、資料の活用が図られた。	
○図書リサイクルにより図書資料の有効活用を図った。	
○東北公益文科大との連携による「受取・返却サービス」の活用により学生や地域住民に利用されている。	
○他の公立図書館との連携により、未所蔵資料へのリクエストに対応した。	
○利用者数の減少は、26歳～55歳の減少が大きく56歳～の高齢者の微増はあったものの補えなかった。	

点検結果・自己評価（課題・方向性）	
-------------------	--

評価	B	<p>○入館者数、貸出冊数の減少に歯止めを掛けるため、年齢・性別・月別等のデータを多角的に分析し、個別需要に応じたサービス提供を検討する。</p> <p>○施設のあり方の検討を進めるとともに、書架の配置等の館内のレイアウトを見直し、行政資料等の配架等を検討する。</p> <p>○利用者からのリクエスト等を活用して、傾向の把握に努める。</p> <p>○新刊紹介や特設コーナーの企画展示を工夫する。</p> <p>○DVD等は図書館にふさわしいソフトを検討し所蔵数を増やしていく。</p> <p>○地域に密着した図書館として郷土資料の充実のため、資料収集等に努める。</p> <p>○広報活動により、利用促進を図る。</p>
----	---	--

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう
基本施策	7 図書館活動の充実
施策	(2) 光丘文庫の保全と活用
担当部署	図書館

施策の目的及び目標	
○目的	・光丘文庫は、大正14年に竣工し、平成8年には酒田市指定有形文化財に指定されている歴史的な建造物であり、その維持保存と公開を行う。本間家をはじめ多くの有志から寄贈された典籍や一般図書等が多く所蔵されており、その保管や分類整理及びこれらを活用した企画展示を行う。また、資料の閲覧のため全国各地からの来館者への対応やレファレンス業務を行う。
○目標	・常設展示について、さまざまな視点によるテーマのもと、年間数回の展示替えを行い、貴重な資料のPRに努め入館者数の増加を目指す。また、本館とその所蔵資料を本市の歴史的遺産として後世に伝えていくため、建物の現況調査と保存及び活用方法について検討を行う。

平成25年度 主な事業の概要及び実施状況													
○所蔵古文書の整理・分類・保存の他、企画展示、利用者への案内・説明等を実施した。全国的にも貴重な資料であるため、多くの専門家が訪れている。													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>算出方法</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数</td> <td>4,658人</td> <td>4,225人</td> <td>5,101人</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>333人</td> <td>266人</td> <td>524人</td> </tr> </tbody> </table>	算出方法	23年度	24年度	25年度	入館者数	4,658人	4,225人	5,101人	利用者数	333人	266人	524人
算出方法	23年度	24年度	25年度										
入館者数	4,658人	4,225人	5,101人										
利用者数	333人	266人	524人										
常設展示（17ケース）	<ul style="list-style-type: none"> 「平安期にみるやまとうたの世界と江戸期の俳諧」 4月5日～9月22日 「絵図面の世界 江戸期の庄内・酒田」 10月8日～2月28日 「明治の人々は何を読んできたか」 3月4日～5月11日 												
ギャラリートーク	<ul style="list-style-type: none"> 「やまと歌の世界 三大和歌集の変遷を中心に」 7月20日 「絵図面の世界 江戸期の庄内・酒田」 11月16日 「絵図面の世界 江戸期の庄内・酒田2」 1月15日 												
レファレンス処理件数	92件												
○資料館移管資料及び国書追加寄贈分資料等の目録整理を実施 ○館報「光丘」の発行（年2回）（第143号 8/1、第144号 2/1）													

事業の効果	
○全国各地からの来館される研究者の方々にも必要な資料を提供できた。 ○常設展示の工夫により、市民への資料紹介ができた。このため、入館者、利用者が大幅に増加した。 ○ギャラリートークの開催により、入館者が増えた。	

点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入館者数及び利用者数が増加するように、常設展示の内容を充実させマスコミなどをおとしたPR方法等を工夫する。ギャラリートークを継続して開催し、文庫所蔵資料を市民に紹介していく。 ○郷土資料の保存整理と利用者への提供は図書館の重要な業務であり、保管している資料等について、継続して目録を整理していく。また、郷土資料の散逸防止のため、さまざまな情報網を活用し収集する必要がある。 ○光丘文庫の方向性については、市長部局判断が必要なため、継続して協議していく必要がある。

基本的方向	Ⅱ 世代を超えて学びあう
基本施策	7 図書館活動の充実
施策	(3) 子どもの読書活動の推進（再掲）
担当部署	図書館

施策の目的及び目標				
○目的 ・子どもがいつでも気軽に読書に親しむ機会を提供できるように、読書環境づくりを推進する。				
○目標				
算出方法	23年度	24年度	25年度	27年度 (目標)
児童図書の間貸出冊数	179,353冊	173,226冊	162,314冊	183,000冊
学校団体貸出の間貸出冊数	2,382冊	1,957冊	1,530冊	3,000冊

平成25年度 主な事業の概要及び実施状況
<p>○「酒田市子ども読書活動推進計画」に基づいて各種事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お話会」を23回実施し、延べ452人の親子が参加した。 ・「赤ちゃんとお母さんの読み聞かせ教室」を12回実施し、延べ208人の親子が参加した。また、お父さんを対象とした教室も実施した。 ・「読み聞かせボランティア講座」を6回実施し、延べ100人が参加した。 ・「おやこ絵本づくり講座」を2回実施し、延べ118人の親子が参加した。参加者は前年の59人から大幅に増加した。 ・絵本作家の講演会を実施し、一般や子ども等88人が参加した。 ・「絵本だより（季刊年4回）」「学校向けパンフレット」「中・高生向けおすすめ本リスト」を作成し、保育園・幼稚園・学校等への情報提供を行った。 ・ポスター展を実施し、「子どもの読書週間」の周知等を行った。 ・夏休み期間中に読書に親しめるよう、読書感想文向けの課題図書や指定図書等のコーナーを設けた。また、工作・自由研究向けの参考図書の展示コーナーを設けた。 ・学校と連携し、児童生徒の調べ学習や図書館見学等により、図書館のPRに努めた。

事業の成果
<p>○「お話会」は、幼児期からの本に親しむきっかけともなり、会場が児童図書室であることから、児童図書の利用増加が期待される。</p> <p>○「赤ちゃんとお母さんの読み聞かせ教室」はブックスタートをきっかけとして、読み聞かせに関心を持たれたお母さんの学習の場となり、児童図書室のPRにも役立っている。</p> <p>○「読み聞かせボランティア講座」は基礎編とステップアップ編の2部構成とし、小学校や各施設等での読み聞かせに活用され、ボランティアの育成に繋がった。</p> <p>○「おやこ絵本づくり講座」は多くの参加者があり、自ら創る絵本への関心の高さが伺われた。</p>

点検結果・自己評価（課題・方向性）

評価	B	<p>○児童書の貸出冊数減少の原因を把握する必要がある。</p> <p>○子ども読書活動推進計画の実施においては、関係各課等との連携を図りながら効率的な取り組みを行う。</p> <p>○「赤ちゃんとおかあさんの読み聞かせ教室」はブックスタート事業と連携した事業で参加者も多く、長期的な視点で継続・充実させる。</p> <p>○講演会や各種講座の開催により、図書館活動への関心を高め、貸出冊数の増加に繋げる。</p> <p>○「絵本だより」や「学校向けパンフレット」等の活用により、学校等の団体貸出の増加を図る。</p> <p>○団体貸出先として、学校以外の施設等に対してもPRを行う。</p>
----	---	--

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす
基本施策	10 歴史・文化遺産の保存と活用
施策	(1) 文化財等の保存と活用
担当部署	社会教育課

施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の貴重な財産であり観光資源でもある文化財について、関係機関と連携しながら、地域の活力を活かし有効な保存、活用を図る。 ・「湊町酒田の文化的景観」として本市の価値調査を行い、重要文化的景観の選定を目指す。 ・市内に存在する資料について調査し、貴重なものについては指定を行う。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展や観光との連携により、文化財施設の入館者数を増やす。
-----------	--

平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	文化財施設入館者数（単位：人）																				
<p>○文化財保護総務管理事業</p> <p>【予算現額 9,530千円】【決算額 9,116千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査1箇所（松山城跡） ・試掘調査1箇所（旧東平田小グラウンド） ・城輪柵跡南門、東門の漆喰壁修繕 <p>○文化財施設管理運営事業</p> <p>【予算現額 49,124千円】【決算額 48,671千円】</p> <p>市立資料館、旧白崎医院、旧鑑屋、旧阿部家、文化伝承館の管理運営経費</p> <p>○文化的景観保護推進事業</p> <p>【予算現額 2,005千円】【決算額 2,004千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特性調査の実施、調査検討委員会の開催4回 ・講演会の開催1回（12/14「魅力ある風景を未来へ」文化庁鈴木地平氏、「景観から読む湊町酒田の歴史」愛知県立大学准教授山村亜希氏、昔の酒田パネル展）130人参加 ・湊町酒田の文化的景観に親しむまち歩きの実施（座学1回、フィールドワーク2回、のべ42人参加） <p>○さかた歴史街道事業</p> <p>【予算現額 1,469千円】【決算額 1,396千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと歴史講座の開催1回（11/3生石板碑群についての座学講座と現地研修） ・阿部次郎生誕130年記念講演会の開催2回（10/14「三太郎の日記の魅力」37人、12/15「阿部家のひとびと～次郎とその兄弟たち～」40人参加、講師は山形大学教授山本陽史氏） 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>旧鑑屋</td> <td>16,051</td> <td>16,592</td> <td>17,180</td> <td>25年度から指定管理委託</td> </tr> <tr> <td>旧白崎医院</td> <td>1,947</td> <td>2,128</td> <td>2,243</td> <td></td> </tr> <tr> <td>旧阿部家</td> <td>2,984</td> <td>2,967</td> <td>2,782</td> <td>企画展示・イベント開催</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	23年度	24年度	25年度	備考	旧鑑屋	16,051	16,592	17,180	25年度から指定管理委託	旧白崎医院	1,947	2,128	2,243		旧阿部家	2,984	2,967	2,782	企画展示・イベント開催
施設名	23年度	24年度	25年度	備考																	
旧鑑屋	16,051	16,592	17,180	25年度から指定管理委託																	
旧白崎医院	1,947	2,128	2,243																		
旧阿部家	2,984	2,967	2,782	企画展示・イベント開催																	

事業の効果	<p>○貴重な文化財や歴史資料の散逸を防ぐとともに、適正に管理保存し、機会を設けて展示等を実施することにより、多くの市民へ文化財保護の重要性をPRすることができ、理解を深めることができた。</p> <p>○文化的景観保護推進事業については、「湊町酒田」の特性や価値がまとまりつつあり、それらを地域住民にPRし、理解を深める活動として、まち歩きや講演会を実施した。とくに講演会は参加者も比較的多く、市民の関心の高さを知ることができた。</p> <p>○企画展示を工夫し、PRに努めたことにより、震災前の入館者数に回復しつつある。とくに旧鑑屋については、指定管理事業者が企画展やPRに努めていることから、指定管理委託の効果が表れはじめています。</p>
-------	--

点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <p>○文化的景観保護推進事業については、酒田市全体の都市デザインの方向性に関連することから、その動向を注視するとともに、特性調査は継続していく。</p> <p>○文化財や歴史的資料は地域の貴重な財産であるため、今後も継続して収集と保存に努める必要がある。</p> <p>○各種施設整備に伴い、最近では発掘調査が増えている状況にあるため、専門職員の養成及び配置について検討する。</p>

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす																						
基本施策	10 歴史・文化遺産の保存と活用																						
施策	(2) 地域における民俗文化財の保存と活用																						
担当部署	社会教育課																						
施策の目的及び目標	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形文化財の保護・継承を行う人材や団体を育成、支援する。 ・「民俗芸能フェスタ」などの各種事業を実施し、伝承活動を支援する。 <p>○目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能や伝統文化の保護を目的に、民俗芸能団体の後継者の育成、関係団体の交流を図り、団体活動を支援する。 ・酒田市民俗芸能保存会への加盟の促進を図る。 																						
平成25年度 主な事業の概要及び実施状況	<p>入場者数 (人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民俗芸能フェスタ</td> <td>810</td> <td>1,037</td> <td>800</td> </tr> <tr> <td>黒森歌舞伎酒田公演</td> <td>513</td> <td>650</td> <td>600</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民俗芸能保存会加盟団体数</td> <td>32</td> <td>33</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>○文化財保存活動支援事業 【予算現額 2,628千円】 【決算額 2,628千円】</p> <p>○さかた歴史街道事業 【予算現額 1,469千円】 【決算額 1,396千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒田市民俗芸能保存会、松山能振興会、松山藩荻野流砲術伝承保存会に対する支援を行った。 ・「民俗芸能フェスタ」を開催し、県内外の民俗芸能を紹介するとともに、市内の保存団体への出演機会を提供した。また、永年の伝統芸能保存継承活動に対する功労者の顕彰を行うとともに、各地域における上演日や演目などをまとめたプログラムを作成するなど、加盟団体を広く市民に紹介した。 				23年度	24年度	25年度	民俗芸能フェスタ	810	1,037	800	黒森歌舞伎酒田公演	513	650	600		23年度	24年度	25年度	民俗芸能保存会加盟団体数	32	33	33
	23年度	24年度	25年度																				
民俗芸能フェスタ	810	1,037	800																				
黒森歌舞伎酒田公演	513	650	600																				
	23年度	24年度	25年度																				
民俗芸能保存会加盟団体数	32	33	33																				
事業の効果	<p>○「民俗芸能フェスタ」は44回を数え、民俗芸能の保存継承だけでなく、地元団体と、他県や市外の民俗芸能団体との相互交流や情報交換の場として、重要な役割を果たした。</p> <p>○黒森歌舞伎については、民間企業のPR事業によりメディアでの紹介が増え、より一層全国的にも認知されるところとなった。</p> <p>○小学生から高校生まで出演機会の提供に努め、民俗芸能の底辺拡大を図ることができた。</p>																						
点検結果・自己評価(課題・方向性)																							
評価	B	<p>○民俗文化財は地域の貴重な財産であり、後世に継承・保存していくために、一層の周知が必要である。</p> <p>○民俗芸能保存会と連携して未加盟団体の加盟を促進していくとともに、後継者育成などの課題解決に向けて支援を行っていく。</p> <p>○「民俗芸能フェスタ」の映像記録、酒田市民俗芸能保存会が行っている各保存会の活動記録、黒森歌舞伎酒田公演の映像記録などを後継者の育成などに活用を図っていく。</p>																					

基本的方向	IV 歴史にはぐくまれた芸術・文化を活かす
基本施策	10 歴史・文化遺産の保存と活用
施策	(3) 地域資料の収集と保存
担当部署	社会教育課

施策の目的及び目標	
○目的	
<ul style="list-style-type: none"> ・市立資料館、松山文化伝承館の管理運営と活用を図り、郷土の歴史等に対する市民の理解を深めることを目的とする。 ・文化財の保存と管理を行うとともに、市民への公開に努める。 ・歴史的に価値のある郷土の資料の散逸を防止するため、購入や受け入れを行う。 	
○目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・企画展示を工夫するなどしてPRに努め、入館者数の増加を目指す。 	

平成25年度 主な事業の概要及び実施状況																				
○文化財施設管理運営事業 【予算現額 49,124千円】【決算額 48,671千円】 ・保存資料の購入（加藤雪窓掛軸ほか）	入館者数 (人)																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資料館</td> <td>5,645</td> <td>6,151</td> <td>5,790</td> <td>企画展 年5回</td> </tr> <tr> <td>文化伝承館</td> <td>3,274</td> <td>6,188</td> <td>3,005</td> <td>企画展 年5回</td> </tr> <tr> <td>阿部記念館</td> <td>253</td> <td>159</td> <td>154</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施設	23年度	24年度	25年度	備考	資料館	5,645	6,151	5,790	企画展 年5回	文化伝承館	3,274	6,188	3,005	企画展 年5回	阿部記念館	253	159	154
施設	23年度	24年度	25年度	備考																
資料館	5,645	6,151	5,790	企画展 年5回																
文化伝承館	3,274	6,188	3,005	企画展 年5回																
阿部記念館	253	159	154																	
○学校教育との連携 ・市立資料館 小中学校来館校数 18校 来館者総数 795人 ・城輪柵跡 小学校の見学校数 6校 見学者総数 215人	文化財及び歴史資料の収集・保存状況 (件)																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市立資料館</td> <td>1,232</td> <td>2,383</td> <td>3,393</td> </tr> <tr> <td>松山文化伝承館</td> <td>138</td> <td>125</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	施設	23年度	24年度	25年度	市立資料館	1,232	2,383	3,393	松山文化伝承館	138	125	32							
施設	23年度	24年度	25年度																	
市立資料館	1,232	2,383	3,393																	
松山文化伝承館	138	125	32																	
○文化的資料の相談や情報提供業務（レファレンス）	レファレンス（調査・問い合わせ等）対応状況 (件)																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市立資料館</td> <td>77</td> <td>58</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>松山文化伝承館</td> <td>26</td> <td>13</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	施設	23年度	24年度	25年度	市立資料館	77	58	48	松山文化伝承館	26	13	11							
施設	23年度	24年度	25年度																	
市立資料館	77	58	48																	
松山文化伝承館	26	13	11																	

事業の成果	
○史跡や指定文化財を広く市民に公開し、地域の歴史や文化財への理解を深めるきっかけづくりのため、各種の企画展示事業を開催し、多くの市民へ文化財をPRすることができたほか、学校教育にも活用された。	
○歴史的に価値のある郷土の資料等については、購入や寄付の受け入れを行い、散逸を防ぐとともに、収集、保存に努めた。	
○ホームページやフェイスブック、マスコミ等を活用してPRに努めた。	

点検結果・自己評価（課題・方向性）	
評価	<p>B</p> <p>○企画展示の工夫やPRに努めたが、昨年度よりも入館者数は減少した。とくに文化伝承館では、昨年度の水彩画展が好評だったことと、阿部次郎生誕130年の企画展が、冬期間ということもあって入館者が少ないことが影響した。</p> <p>○阿部記念館については、展示内容のほか保存管理のあり方について検討する。</p>

平成25年度 地域の教育力向上事業進捗状況 (平成26年3月末現在)

単位

	コミ振名	実施事業概要	実施事業数	実施日数	参加人数
1	西荒瀬コミュニティ振興会	育てよう！わくわく夢の森(学習林である、クロマツ林の手入れと学習)花いっぱいフレンドリー活動(花壇、プランターへの花植え)日向川源流体験(日向川の恩恵を学び、自然を大切にすることを養う・鳥海山登山)ふるさと産品調理教室(子どもたちに地場産品を主にした食物のおいしさを伝える。)干し柿づくり(児童がつくり、高齢者の一人暮らしへ配布)鮭料理教室(日向川で捕獲した鮭を使った料理を学ぶ)	6	6	408
2	新堀コミュニティ振興会	3世代交流(稲作、俵あみ)、最上川自然探検隊(最上川川下り、刺し網、カニ漁)、伝統芸能伝承(五カ村神楽舞)、世代間交流(七夕まつり)、世代間交流(凧づくり・凧上げ)	5	9	671
3	広野コミュニティ振興会	3世代交流事業:花植え(広野小校門花壇の花植え)、陶芸に親しむ(陶芸体験)、縄ない体験、餅つき体験、紅花を育てる(紅花の栽培、加工)、手作り体験(紙飛行機作成、手作りうどん、竹水鉄砲作成)、ふれあい農園(ピーマン、ナス、ジャガイモ、スイカ栽培)、伝統芸能(庄内出羽人形学びと体験)、旧跡を尋ねて(旧跡、神社の歴史を学ぶ)	9	34	720
4	浜中コミュニティ振興会	子ども交流事業(農業体験(野菜・花の栽培)、浜っ子るんるんひろば(放課後、地域の人と遊び学ぶ))、世代間交流事業(歌とピアノのコンサート、園児の歌と踊り、高齢者とあやとり、お手玉)、浜中・黒森交流会(ソバ打ち、歌舞伎の化粧体験)、スポーツ教室(野球、綱引き、バドミントン)	4	25	608
5	黒森コミュニティ振興会	孫親学級(昔の遊びや工作体験)、浜・黒6学年交流会、三世代くろもりんピック(ウォーキング)、少年ふれ太鼓、少年歌舞伎・太鼓練習会、あつたか年越大作戦(手作りグッズ作成、掃除ボランティア)、黒森っ子子育てネットワーク(上映会)	7	10	291
6	十坂コミュニティ振興会	3世代交流(昔の暮らしの体験談)、親子ふれあい健康講座(食育・歯の健康講座、調理実習等)、バンジーサークル(笹巻、ロールケーキ調理実習)	3	4	394
7	東平田コミュニティ振興会	農作業体験(稲作)、自然とのふれあい(魚釣り大会)	2	3	70
8	中平田コミュニティ振興会	一坪菜園(親子で作物栽培)、おばけかぼちゃランタン作り、子ども神楽(手蔵田神楽)、どんぐりの読み聞かせ会、世代交流グラウンドゴルフ、竹細工と昔遊び	6	27	180
9	北平田コミュニティ振興会	夏の夜の読み聞かせ、園児の茶道体験、お化けかぼちゃコンテスト、ひょうたん作り、保育園児の茶道教室	5	16	232
10	上田コミュニティ振興会	上田太鼓教室、サマースクール(市内施設見学、調理体験、創作活動、カヌー体験)、酒田凧作成教室、こたつ交流会(昔遊び等)、ひなまつり茶会	5	95	770
11	本楯コミュニティ振興会	ふるさと文化学習事業(ウオークラリー、ハンバーコン作り)、もとたてグローバル・スタディ事業(稲作体験、サクラマス放流、花の栽培と舞茸育成)、もとたて地域つながり事業(ボランティア講習会、世代間交流、通学合宿)	8	21	1550
12	南遊佐コミュニティ振興会	七夕フェスタ(園児ゆうぎ等)、まなびの里教室(刺し子、英会話、フラダンス、ペタンク)、ふれあいグラウンドゴルフ、南遊佐の歴史めぐり、すくすくみんなで交流大会(老人クラブと保育園児の交流)、チャレンジそば打ち体験、卒業お茶会	7	11	596
13	一條コミュニティ振興会	交通安全教室、壁画作り、敬老の日お手紙作り、ハロウィンコンサート、昔遊び、書き初め教室、雪遊び、健康講座	8	8	609
14	観音寺コミュニティ振興会	にこにこ体験隊(田植え、カヌー体験、夏祭り、稲刈り、ネイチャーゲーム、餅つき、だんご木作り、雪遊び)、絵灯籠作り	6	40	370
15	大沢コミュニティ振興会	大沢地区地域交流会(太鼓演奏、料理教室等)、大沢清流太鼓活動、大沢地区通学合宿、畑の学校(ジャガイモ、サツマイモ等)	4	31	675
16	日向コミュニティ振興会	日向ぼっこスクール(なめこ栽培、ペンキ塗りボランティア、畑作、ほたる観賞、ピザ釜でピザ作り、日向川の学習、干し柿作り、クリスマスクッキー作り・年賀状作り、雪まつり)	9	11	409
17	南部コミュニティ振興会	地見っ子ふれあい協議会(ホテル観賞、施設見学、縄文の女神像づくり、ピザ・バウムクーヘン等づくり、雪中ゲーム、スノーランタン作り等)、通学合宿、伝統芸能鑑賞会(大川渡神楽)、ふれあい音楽会、そば打ち、手作りおやつ、高齢者世帯にクリスマスを(カード、弁当等の作成と配布)	7	12	492
18	山寺コミュニティ振興会	作物栽培と料理講座(米、豆、さつまいも、豆腐づくり)、読み聞かせ事業、伝統芸能文化伝承(墨絵、茶道、生け花、狂言)、ホテルの里ウオッチング	6	43	1200

単位

	コ ミ 振 名	実施事業概要	実施事業数	実施日数	参加人数
19	松嶺コミュニティ振興会	チャレンジ教室(野菜作り、早起き体操、茶道、ケーキづくり、グラウンドゴルフ教室、書初め、ケーキ作り)	5	13	290
20	内郷コミュニティ振興会	木工教室、内郷学区通学合宿、親子料理教室、 新社会人ボランティアフェスティバル	4	6	47
21	田沢コミュニティ振興会	中学生ボランティア活動、地元体験事業(グラウンドゴルフ、絵手紙、長堀牧場酪農体験、食育講座)、ガラスエッジング体験、地元施設でのコンサート	3	12	238
22	東陽コミュニティ振興会	野焼き体験教室、東陽通学合宿、農業体験(種まき、ソーメン作り体験、刈り取り、芋煮作り、そば打ち)、花まる交流会(花植え、野菜栽培、書き初め教室)	4	11	136
23	郡鏡・山谷 コミュニティ振興会	宿泊研修(異学年)、水生生物学習会、陶芸教室、ハーブ石鹸、料理教室	5	7	118
24	南平田コミュニティ振興会	伝統芸能伝承(飛鳥祭奴振り・檜橋神代神楽)、さしこ教室、そば打ち体験、粘土細工教室、なしだんご作り体験	3	27	284
25	砂越・砂越緑町 コミュニティ振興会	笹巻づくり、通学合宿、陶芸教室、芋煮会、石けんづくり、うどん打ち体験、もちつき・竹細工	7	8	248
			138	490	11,606

平成25年度 生涯学習推進講座開催事業実績

区分	事業名	実施回数	人数	
幼児	わくわくちびっこ広場	3	386	
	わらべのひな祭り展	13	591	
	孫と一緒に♪リトミック	4	110	
	親子でヒップホップダンス	2	123	
少年	さかたっ子・チャレンジ冒険団	3	54	
	酒田マリーンジュニア合唱団	43	892	
	新春書初め会	1	53	
	正月行事「みんな集まれ！お・正月」	1	200	
	わいわい出前講座	12	1,190	
	地域人材交流講座	297	6,079	
	特別出前講座「わたしたちの先輩」	3	359	
	市民企画講座「楽しくチア体験」	5	121	
青年	酒田のラーメン講座	4	53	
	基本の料理	10	146	
	新成人のマナー講座	1	14	
	アイドルデザイン・ダンス講座	12	87	
	成人式実行委員会	8	115	
成人	住まいを快適にするためのDIY講座Ⅱ	5	65	
	湊町酒田の文化的景観に親しむ街歩き	3	31	
	ふるさと自然倶楽部	4	50	
	男の生活向上委員会～クッキング部Ⅱ～	8	97	
	冠婚葬祭に役立つ筆ペン講座	10	166	
	古典を学ぶ	5	81	
	家の安全講座	4	20	
	リズムで脳トレ	5	47	
	市民企画講座「花のある暮らし」	5	42	
	市民企画講座「パステルアートで絵を楽しもう」	3	39	
	市民企画講座「暮らしに役立つリメイク手芸ソーイング教室」	5	46	
	骨ストレッチ体験講座	2	57	
	東北公益文科大学市民大学講座(昼の部)	5	180	
	東北公益文科大学市民大学講座(夜の部)	3	46	
東北公益文科大学市民大学出前講座	6	232		
家庭教育	みんなで遊ぼう「さんさん学級」	6	188	
	すくすく出前講座	30	1,737	
	地域家庭教育講座	20	1,434	
	思春期ママの子育て講座	2	19	
	こどもにかかるお金講座	1	12	
	家族でわくわく自然遊び	1	24	
	家庭教育モデル講座	8	250	
	もっと仲良くなるう「パパと一緒に」	4	104	
	家庭教育講演会	1	400	
	かんたんかわいいデコ弁つくっちゃお♪	2	29	
	赤ちゃん登校日	5	118	
指導者養成	中学生をサポートする保護者研修会	3	82	
	ホール音響・照明操作講習会	2	17	
	少年団体リーダー研修会	1	40	
	地域の教育力向上 スキルアップ講座	2	23	
	推進員企画講座Ⅰ(バラのある庭づくり講座)	2	29	
	推進員企画講座Ⅱ(エンディングノート講座)	3	47	
催し	社会教育研修会	3	92	
	出羽遊心館春の市民茶会	1	345	
	生涯学習まつり2013 期間 平成25年10月18日～20日 参加団体75団体 会場 総合文化センター	3	17,505	
	正月行事展	9	1,794	
	文化講演会 期日 平成26年3月22日(土) 講師 渡部陽一 氏 演題 『世界からのメッセージ～家族の絆と命の大切さ』	1	379	
	酒田市夙あげ大会	1	118	
	巨大迷路	8	3,083	
	マリーンジュニア定期演奏会	1	200	
合計(25年度)		615	39,841	
		参考:24年度	616	35,487
		参考:23年度	611	35,575

東北公益文科大学市民講座実績(内訳)

・市民大学講座

25 昼の部:座学形式、夜の部:ワークショップ・ディスカッション形式		
昼の部テーマ「市内の施設めぐりを含めた『酒田の魅力再発見』」		
区分	演題	人数
1	飛島の事例から見る、新しい地域づくり	36
2	庄内に生きる女性の魅力	33
3	湊町さかたの町並みに、ふだん気づかない魅力を発見する町歩き	36
4	「方言カルタ」から見る酒田言葉の魅力	39
5	新しい酒田の地域資源を考える	36
計		180

夜の部テーマ「事業を計画してみよう」		
区分	演題	人数
1	地域の魅力発見～わたしの町のこれが「いいね！」	17
2	アイデア発掘～こんなことが出来たら「いいね！」	17
3	計画づくり～無理せず、楽しく、やれたら「いいね！」	12
計		46

〈参考:市民大学〉

24年度	講座数	受講者数
昼の部	5	180
夜の部	3	38
23年度	講座数	受講者数
昼の部	5	156
夜の部	3	77

・出前講座

区分	演題	人数
1	フランスの庭園と水の風景～ヴェルサイユ宮殿を中心に～	14
2	女性のしなやかな生き方について	50
3	超高齢化社会における自治会活動とリーダーの役割	61
4	身近な環境を守るしくみを考える(紅花を通して、私たちの健康から)	42
5	地域で暮らす幸福感パート2	39
6	身近な環境を守るしくみを考える(紅花を通して、私たちの健康から)	26
計		232

〈参考:出前講座〉

年度	回数	受講者数
24年度	6	372
23年度	6	279